

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・高卒求人はどの業種も全体的に増加している。
- ・介護、ホテル、運送、建築土木、警備などの求人が多い。特に、本州の企業からの郵送や直接的な学校訪問が見られるようになった。
- ・自衛隊、警察からのリクルート活動が活発化している。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・正社員が多数であるが、一部準職員(農協等)や採用時契約社員(運輸局の船舶求人)もある。
- ・介護求人や障がい者の雇用については、正社員としての採用企業が少ない。
- ・事務職の募集が臨時職員としてのものや、男女雇用機会均等法に反するような形の募集も見られた。

(3) 採用試験の状況

- ・教養試験をやめ面接(雑談のような面接もあり)のみの企業が多く、合格率が高い。
- ・特に地元企業で応募から採用試験まで1か月以上待たされるケースがあった。
- ・応募書類発送期間中に採用試験を行った企業があった。
- ・求人票に記載がないのに、二次試験や作文の試験があることを後から告知した企業があった。その逆に作文試験等を記載していながら、実施しない企業も見られた。
- ・初めて高卒求人を出す企業で、求人票の記載と異なる条件(勤務地)で内定通知が来た。
- ・適正試験・クレペリン検査を取り入れている企業が増えてきた。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・関東方面での台風被害による試験の延期や、内定式の延期があった。
- ・物流がストップし、企業からの郵送物が遅れたがメールでやりとりして事なきを得た。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・地元の高校から採用を希望している企業が多いので、学科に関わらず地元就職希望が圧倒的に多い。
- ・ここ数年は、資格がなければチャレンジできなかった企業や道外求人の募集が増えているように感じる入社後資格がとれるよう、企業で教育を行う内容のものが多い。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・家庭事情(経済的理由)により進学は難しく、就職を希望する生徒が多くなっている。
- ・自宅から通勤できる地元企業への就職傾向が強い。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・一般求人でも充足したため高卒求人を取り消したと思われる事例があった。
- ・応募前職場見学をした翌日に、充足求人取消となり、試験を受けさせてもらえなかった
- ・書類提出後に受験させられないと言われた。ハローワークに連絡したが消極的な対応をされた。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・一次選考では高校生のみだったが、二次選考(最終選考)で、上級学校卒予定者(短大生)と同じ場での試験を実施した企業があった。
- ・大学・専門学校生の応募がないという理由で、高校求人にして募集した企業があった。

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・生徒が一次で応募すれば合格(二次になる生徒はいない)する確率が高くなった。
- ・二次以降も求人を継続されている企業が多く、一次で内定が出なかった生徒もすぐに次の企業を受けることができた。

(10) その他

- ・応募書類発送前に企業に連絡をして応募をまだ受け付けていると確認したが、採用試験の面接日を後日確認したところ、先に面接を行った生徒で募集を締め切ったと言われた。
- ・採用試験の際に、求人票と違う内容の勤務形態(就業場所や時間等)を提案され戸惑ったという報告が生徒からあった。
- ・履歴書を送付したが全く音沙汰がない。選考日の確認の電話を数回したが、「後日連絡する」が続き、最終的に選考日の前日に連絡が来た。
- ・普通科にも就労支援や移行支援事業を利用したいという生徒がいる。受け入れ先をつなぐ中継地点(パートナーティーチャーの活用、面談など)の活用が必要。
- ・面接時に「家族構成」を聞かれた企業があった。同じ企業で内定通知が来るまで、約2週間かかった。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)

- ・応募前見学を好意的に捉え、協力してくれる企業が増えている。
- ・直接見学へ行けない生徒のために「Web企業説明会」を実施している企業もある。

- ・企業によっては「見学＝受験する」と認識している。また、面接の時点で内定を生徒に言い渡しているケースも例年少なからず見られる。
- ・「前例がない」「見学に来て応募がなければ心外」という理由での非協力的な企業や「どの程度本気で考えているお子さんですか」と問われるケースもあった。
- ・応募前見学に保護者が付き添いたいというケースが増えている。

(2) 応募書類

- ・企業から、高卒求人の出し方がわからないので教えてほしいという問い合わせが学校にくる。

(3) その他

- ・求人票の「転勤有り」という記載において、転勤の範囲が「全国」であるにもかかわらず「北海道内」と読み取れる記載をする事業所がある。
- ・応募から選考日までが長く、選考日から採否の通知が遅いケースがある。

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1) 就職面接会

- ・生徒だけでなく教員も活用させてもらっている。非常に助かっている。
- ・例年、町商工会で行われている面接会に参加している。生徒にとって大変貴重な機会であり、来年度も実施していただきたい。
- ・反面、面接会の会場が遠いため、参加はしていない(経済的な理由)。ハローワーク管内で実施してもらえれば、まだ参加しやすい。生徒のニーズに合っていない企業が多い。開催時期も遅く、もう少し早い時期がよい等の問題点はまだある。
- ・参加した企業のほとんどが後日2次試験を行っている。中には社長が不在だからと説明だけされ、後日ほぼ半日をかけて試験を受けたケースもあった。

(2) ジョブ・フェア(合同職場説明会)(実施している地域のみ回答)

- ・受験企業を決めかねている生徒にとっては、合同企業説明会は良い機会だった。
- ・開催する地域が都市部のため、地方の高校は参加しづらい面がある。もっと小さい町でも実施してもらいた。また、実施回数を増やしてほしい。
- ・無料送迎バスで就職希望の生徒全員を参加させ、地域の企業について知る機会になった。

(3) 就職準備講習

- ・夏季・冬季休業などを利用して教育局の進路相談員、ハローワークの高校生担当やジョブカフェの講師また、地元商工会関係者を招いて実施しており、生徒の就職活動の効果がある。

(4) 未就職卒業生就職支援事業等

- ・大都市圏で開催されているので、遠隔地居住者の場合、交通費に加え宿泊費がかかり、参加が難しい。また、卒業してしまうと既卒者への連絡が難しい。
- ・個別カウンセリングを実施していただき、大変助かりました。

4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ジョブサポーター)等の就職支援

- ・大変活用しており、目に見える形で結果が出ている。ただし人員が削減され、ジョブサポーターの仕事量が増え、講師として依頼することができなくなった。とにかく人員を増やしてほしい。
- ・年に数回来校していただき、生徒と直接面談や講演をして生徒の就職に対する心構えが良くなる。教員向けの面接指導対策等を行っていただき、教員の知識理解が向上した。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施するガイダンス事業)

- ・活用させてもらって、非常に助かっている。(複数意見)
- ・インターンシップ事前研修やビジネスマナーに関する指導、保護者への講話などで活用。

(3) その他・要望・意見

- ・定時制課程の授業時間にもジョブサポーターが来てほしい。
- ・企業説明会を実施するのであればハローワーク主催で行っていただきたい。受付後2時間以上も待たされた。
- ・公務員とくに町村職員合格者への意思確認の方法に問題があると感じる。

5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・あらゆる職種に労働3権を徹底する施策。
- ・毎年3月生まれの生徒が自動車の免許を入社までに取得できず、過大な不利益を被っている。
- ・障がい者雇用について、企業・学校の連携を図れるように、毎年、交流会や意見交換会を各ハローワーク管内単位で良いので開催してもらいたい。
- ・ユースエール認定制度について。年々認定を受けた企業が増えつつあるので、今後積極的なPR活動を行ってほしい。
- ・事業所側から「労働条件通知」を送付してくるところはほとんどない。
- ・学校側が一人一社制を遵守する一方で、企業側から1名の求人に1校から複数生徒を受験させるように要求されるケースがありました。
- ・採用をいただいた後「内定式」を11月の実施を案内してきた事業所がある。
- ・都道府県ごとに「複数受験」が可能になる時期が違うので揃えてほしい。

6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について

- ・高校生が見て分かりやすいように。1枚両面に詰め込みすぎて見づらい。生徒が知る上で必要な項目までも削除されてしまっている。手取り給料などは必須でも良かったと思われる。
- ・勤務地や転勤があるのかないのかはつきり記入してほしい。
- ・求人票に未記載の部分が多すぎます。賞与や昇給欄、具体的な選考方法がない、役職名や役職者氏名、採用担当者名が書いていない又はフルネームでないなど、非常に困る。

7 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点

(サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて)

- ・大多数の学校でパスワードを教えていない。そのため学校で求人票を多数印刷して保護者に見せて相談している。パスワード管理の問題はあるがID・パスワードを伝え自宅で保護者とともに自由に閲覧できると生徒の負担が減ると考える。
- ・別条件複数タブで一気に入れておくことができない、同じ企業が重複している、株式会社と社名の中にスペースを入れるか入れないか等 改善してもらいたい部分は沢山ある。
- ・企業側と連絡を取って、求人が終了したら、「終了」とか「済」等載せてほしい。

(2) 新たに希望する追加機能など

- ・会社別の求人票をPDF化・Excel化し、保存・ダウンロードができるように。
- ・ソート機能の充実(賃金の高い順など)や企業名、就業場所等での検索ができるように。
- ・求人票の一括印刷機能があればよいと思います。
- ・求人受付番号と企業がアイウエオ順で一覧になっているページがあると良い。

8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点

- ・内容が周知・徹底されていないように感じる。そのため、e-ポートフォリオとキャリアパスポートを同じにとらえている意見が多数見られた。関係方面からの情報提供(通知だけに頼らない)をしてほしい。
- ・学校独自の「進路ノート」の改訂や、Classiを導入することで、生徒個々のデータを蓄積し、「キャリアパスポート」として代用活用する予定の学校もある。

9 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望)

- ・ハローワーク、ジョブサポーターが非常に協力的で学校の要望に応じてくれる。
- ・受け付けた求人をPDF化し、受付事業所一覧とメールに貼付して送信してくれているハローワークがある。
- ・ハローワークと校内ブース型進路相談会や職業相談をしてもらい、その後、生徒・保護者・教員・ハローワークとの4者で面談をし、情報を共有化している。
- ・特別な支援が必要な生徒について、ハローワークの専門援助を通して障がい者就業・生活支援センターにつなげてもらった。生徒・学校を含む4者で連携して就労支援に取り組んでいる。
- ・特別な支援が必要な生徒の就職活動について、ハローワークの担当者と養護教諭との間で密に連携がとれており、トライアル雇用制度などの情報提供もしてくださり、非常に助かっています。
- ・特別な支援が必要な生徒への対応について、新卒応援ハローワークには詳細な対応をお願いしたい。特に各ハローワークごとでやり方や対応が異なるのは大変問題だと思います。
- ・新卒障がい者の求人についての情報をもっと充実させてほしい。ハローワークのWeb上にもほとんどない。
- ・てんかんの発作がある生徒で自動車免許を取得できない生徒でも障がい者求人ではなく高卒求人として理解して雇用してくれる就労先が増えるように企業側へ働きかけをしてもらいたい。

10 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、

⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載

- ・どの機関に要望すべきか分からないが、企業側も特別な支援が必要な生徒についての理解を深めてほしい。また「若者を育てる」という前提で採用し、企業側が「新入社員の育成」にしっかり取り組んでほしい。
- ・次世代を担う若者が夢や希望を持って活躍できる社会の構築を願っています。(①②③)
- ・就職したい高校生のことを考えたアプローチの具現化を期待します。(④)
- ・北海道の最低賃金のアップとオホーツク管内の高卒の給与の値上げをお願いしたい。(⑥)
- ・若者サポートステーションの事業を継続実施してほしい。(①)
- ・業界の職場見学にバスを出して、いくつかの現場を見せてほしい。(⑥)
- ・高卒就職の「離職率」が問題とされる場面が多々あるが、率直に言って事業所の問題である場合が少なくない。(⑥)
- ・私立高校だと、公立高校のような教育(就職など)に関わるセミナー等の連絡が入ってきません。今後、私立高校にも公立同様に色々な情報がほしい。(④⑤)
- ・公務員試験の在り方について、疑問に思うところがあります。一番の問題点は、エントリーから結果発表まで拘束される時間が長いということです。
- ・履歴書の手書きが苦手な生徒は少なくない。履歴書がワープロで作成できれば、発達に課題がある生徒の負担が減る。(①④⑥)

- ・進路相談員に定時制の日課に合わせて来校してもらい、直接生徒へ指導してもらった。生徒から好評だったので、他の関係機関にも来校していただき指導をお願いしたい。(①④)
- ・各関係機関へ別々に報告しなければならないのを何とか統一した書式で、一機関へ一括で報告できるようにしてほしい。(①②③④⑤⑥)

(東北ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・求人の変化は見られず、例年通り製造業・建設業が大半を占めた。
- ・例年は高卒を採用していない企業から、大卒で充足できず追加で数社から求人の依頼がきた。
- ・昨年まで求人票を持参していない企業が持参してきた。
- ・高卒求人が初めてという事業所があり、どのようにすればいいのかという問い合わせがあった。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・最初から除外している県もあるが、生徒・保護者から希望があれば受験させる。

(3) 採用試験の状況

- ・求人票記載内容と異なる試験が行われた。
- ・求人票に記載されている選考方法と、試験前に通知が来た選考方法が異なっていた。
- ・スマホで性格検査を受験するという企業があった。
- ・高卒求人のルールがわからない企業もあり、9月16日以前に試験を実施しようとした。
- ・面接試験で「家族構成、出身地について、彼氏はいるか、兄の高校」などの禁止質問をされた。
- ・Skype(スカイプ)や、地元の営業所で本社とのテレビ電話で面接試験が行われた。
- ・書類郵送から採用試験までの期間が長く、事前に知らされず、二次面接や三次面接まで実施した企業があり、内定まで1ヶ月半以上かかった。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・台風19号の影響で入社試験が延期になった企業があった。
- ・二次応募の時期に台風19号による浸水被害に遭い、1名が応募書類の発送時期が遅れた。
- ・台風19号の被害により、生徒の利用が多い鉄道路線が不通となり、応募前職場見学、採用試験等に支障の出た生徒が数名いる。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・地元の企業を希望する生徒が多く、転勤のない企業を選ぶ傾向が強い。
- ・定時制では、アルバイト先(飲食業)で正社員となる生徒が増加した。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・自宅から通勤を希望する生徒がほとんどである。
- ・経済的な理由で、進学から就職に進路変更する生徒が依然として見られる。
- ・売り手市場の影響で、緊張感に欠け、取り組みの甘い生徒が多い。
- ・保護者の意向が受験先決定に強く影響するケースが増えている。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・選考終了後に、欠席理由等について学校・担任に問い合わせがあり辞退の方向にさせられた。
- ・企業への応募を決めて履歴書の下書きが済んだところに、求人数を減らす連絡があり、直前での書類変更が困難なため応募したが不合格となった。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・大手の製造業や販売小売業及び事務系職種の一部の求人で疑わしい状況の報告を受けた。
- ・上級学校との競合という事例は特に見られなかった。しかし、大卒者枠の応募人数や採用人数により、高卒求人の人数を決定するという企業も数社見られ、高卒求人に与える影響は大きいと思われる。

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・例年だと二次求人を出さないような企業が、今年度は見受けられる。
- ・二次あるいは三次募集を求める企業が多く、電話の問い合わせ、学校訪問が続いている。
- ・9月16日以降すぐに、二次募集の連絡が入ることが多くなった。

(10) その他

- ・独自の求人票の企業がある。ハローワークの求人票に準じてほしい。
- ・アポイントなしで訪問する事業所があり、時間調整ができず対応できない場合がある。
- ・入社説明会や内定式を授業のある平日に予定する企業がある。卒業式後に実施してほしい。
- ・一次試験以降も県内外企業ともに例年より求人の問い合わせが多い。特に内定御礼と二次募集、来年度の求人来校する企業が増えた。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)

- ・生徒が希望するすべての企業で応募前職場見学を実施したが、応募を見学の条件としている企業もあった。
- ・企業見学の段階で採用するかどうかを判断する企業があった。

- ・出願を前提とした見学しか受け付けない企業があった。
- ・応募前職場見学の日付を指定する場合は、求人票に明記してほしい。

(2) 応募書類

- ・社名の変更・本社移転先の連絡がなく、応募書類を求人票先に送付した。
- ・内定を受ける前に、健康診断書の提出を求められた。
- ・調査書と履歴書を返却しない企業があった。不合格になった生徒の書類の返却をお願いしたい。

(3) その他

- ・一人一社制は守るべきである。
- ・一人一社制を今後も継続していただきたい。
- ・学校側としては「一人一社制」を継続していただきたい。
- ・現行通りでよい。
- ・求人票を持参される企業が増加した。
- ・内定式を授業日に行う企業が増えている。
- ・入社式を平日授業日に行わないでほしい。
- ・求人票に関して、内容が異なる同番号の求人票が送付され、応募を取り下げた件があった。
- ・初めて高卒求人を出す企業に指導をお願いしたい。

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1) 就職面接会

- ・未内定の生徒が、複数の企業の話をも直接聞けるまたとない機会であり、就職試験に及び腰な生徒の背中を押す意味でも効果的である。
- ・二次募集を受験する前に企業担当者と話をする機会があり効果的である。

(2) ジョブ・フェア（合同職場説明会）（実施している地域のみ回答）

- ・既に受験企業等が決定した後に開催されているため参加していない。
- ・企業を知る良い機会なので、今後も実施してほしい。
- ・担当者と直接やり取りして疑問点を解消できる点、資料だけでは分からない具体的な企業情報が得られる点で役立っている。

(3) 就職準備講習

- ・職業意識の醸成、スキルアップに有効であり、継続してほしい。

(4) 未就職卒業生就職支援事業等

- ・二次募集に対する支援事業はありがたい。
- ・例年、有効活用させていただいている。
- ・ハローワークの担当者に相談にのってもらっている。

4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員（ジョブサポーター）等の就職支援

- ・面接指導、求人票の見方など、確かな情報が得られるのでとても助かっている。
- ・進路指導主事の業務軽減につながっている。
- ・教員、生徒への情報提供や進路相談、面接指導、講話、地元企業訪問、求人票の整理等の業務を担っていることから欠かせない存在であり、継続を要望。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等（ハローワークが実施するガイダンス事業）

- ・今後もぜひ実施してもらいたい。
- ・マナー講習や労働法など職業意識の形成に有効であり継続を要望。

(3) その他・要望・意見

- ・以前に比べ、ハローワークの高校現場への関わり方が少なくなってきたように思われる。
- ・インターンシップの際に、障がいを抱えている生徒を受け入れてもらえなかった。
- ・インターンシップの保険補助を復活してほしい。

5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて（具体的に）

- ・就職支援の一環として軽度の発達障害がある生徒やその疑いがある生徒も含めた支援を必要とする生徒・保護者に対して、面接・訓練（発話・動作・作業）の支援ができる公認心理士、言語聴覚士等の専門家の派遣を、学校現場の実情に合わせて臨機応変に要望できる制度を検討していただきたい。

6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について

- ・インターネットサービスが充実することにより、「スマホ」や「タブレット」などの携帯端末で求人情報を検索・閲覧できるのは良いと思う。
- ・3枚から2枚になるのは大いに賛成である。しかし、給与の総額や手取り額が表示されないなど、悪い面もある。また、「宿舎」情報が少なくなったので決め手に欠ける。

7 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点

- （サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて）
- ・企業名だけで検索できるようにしてほしい。
- ・WordやExcel等に変換できるようにしてほしい。

- ・新着状況によって掲載位置が変わったり、番号が変わったり、なくなったりと確認が難しい。
- ・求人票を一括印刷できるようにしてほしい。
- ・履歴を残してクリックするだけでまた見ることができる機能がほしい。
- ・掲載日が確認できるようにしてほしい。
- ・生徒や保護者が閲覧できるようにしてほしい。

(2) 新たに希望する追加機能など

- ・求人票のデータをコンピュータで処理できる形式(CSV、Excel)でダウンロード出来るようにしてほしい。

8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点

- ・新年度に実施する内容を、早く現場に伝えてほしい。
- ・基本的情報が不足している。

9 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望)

- ・内定状況の報告は、現状に合わせてほしい。高校現場は就業場所で県内外に振り分けているが、なぜ求人票を提出したハローワークにこだわるのか、教育現場の状況を把握してほしい。
- ・内定式に関して、平日の開催が今年度もあったので、3月以降又は土日にしていただきたい。
- ・ハローワークの担当者がアポなしで来校してくる。

10 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載

- ・各種報告の様式や集計方法が厚生労働省と文科省、その他の団体(校長会等)で統一されていないため、校内での調査・集計に時間と労力を取られている。最低限、国や都道府県が行う調査・報告の集計方法や様式を統一してほしい。(①②④⑤)
- ・進路アドバイザーが細目に企業を訪問し、有益な情報を教えてくれるので継続してほしい。(⑤)
- ・福島県事業の「進路アドバイザー」に非常にお世話になっている。持っている企業の情報も多く、生徒達へも丁寧に接してくださり本当にありがたいです。(⑤)
- ・例年、意見・要望を提案しても何も改善されないのではないか。(①②③④⑤⑥)
- ・6月20日から求人票の解禁にしてほしい。職業安定所が6月1日からになり、前よりも20日も早くなったので、高校側にも早く提示してほしい。生徒が企業見学のために選ぶ期間が短く、人生の選択になるので、もっと選ぶ時間がほしい。(①)
- ・毎月の報告は職業安定所に行っているのですが、教育委員会には出さなくてもいいように、教育委員会は職業安定所から情報をもらったかどうか。(⑤)

(関東ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・働き方改革の影響で労働条件の改善(給与の増加や年間休日の増加)が見られた。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・数は少ないがあった。

(3) 採用試験の状況

- ・スマートフォンを持参させ、適性検査を実施する企業があった。
- ・一次選考時に生徒の連絡先を聞いて、二次面接の日時を直接連絡し、学校には何も言っていない会社があった。
- ・試験日前にWeb上の適性検査を実施する企業が見られ、学校としての対応に苦慮した。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・就職活動に影響があったという報告は受けていない。日程・時間を変更して対応してもらった。
- ・週末の試験では、対応が大変な時もあった。
- ・自宅が被災中に受験に行った生徒もいた。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・学科指定や資格指定をなくし、学科不問の求人が増加している。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・どの職種に対しても地元志向が強い。
- ・勤務条件として「土日なし」「夜勤なし」を希望する生徒が多かった。
- ・大学のAO入試や公務員試験に失敗し、就職希望に変更する生徒が増加したが、就職活動への取り組みは積極性がない。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・出願してから今年度は高卒新卒採用は中止になったと連絡をしてきた会社があった。職安に連絡して企業側にルールを説明してもらい撤回してもらった。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・医療事務、医療秘書関係の求人があったが専門学校の学生が採用され、別の部署の事務職として採用するがどうするか聞かれ、別の部署の事務職として採用された。
- ・企画・事務職などで、上級学校との競合で厳しい状況であった。

- ・情報系の専門学校とネットワーク関係の職種で競合が多々見られた。

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・求人はあるが、希望条件や職種は限られている。

(10) その他

- ・見学や採用試験の日時の連絡は極力紙媒体にしてほしい。要求しても口頭だけの場合がある。
- ・アルバイトを希望する生徒が昨年度より大幅に増えた。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)

- ・企業見学を実施しないところがある。職場見学は無理でも説明会等を行ってほしい。
- ・早期選考はないが、生徒が見学に行った時点の雰囲気や内定が決まる場合はある。
- ・見学後に出願の事前連絡を行ったうえで出願したのに、書類審査で不採用の通告を受けた。
- ・見学がたった5分で終わってしまったところがあり、生徒がとまどっていた。

(2) 応募書類

- ・不採用の場合、書類返却のない企業が多い。個人情報観点から配慮がほしい。
- ・就職試験の詳細が電話連絡のみの企業があるので、書面で提出してほしい。
- ・一部企業でエントリーシートを併用。

(3) その他

- ・国籍・アレルギーについての問合せがあり、本人のためには答えている。
- ・面接時になぜ留年したのかを問われたケースがある。
- ・授業のある平日に、内定式、健康診断、研修を実施したいという企業が今年も非常に多い。
- ・一人一社制を堅持してほしいという意見が多くある。現在、会社選択や見学へ向けての指導、志望動機を含めた履歴書の指導、面接指導など、進路指導部や学年を中心に全職員で手厚く指導している。高校生の複数社受験は生徒の意識面からも難しいと思われる。早期離職を増やす結果となると予測される。
- ・10月以降も一人一社制が望ましいと考える。

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1) 就職面接会

- ・就職面接会は、生徒にとって企業を知る良い機会になっている。7月中旬に実施していただきたい気もするが、10月～11月の実施は未内定者にとってとてもありがたい。
- ・平日なので、できれば放課後でも間に合う時間帯にしてほしい。
- ・進学(公務員)から変更した生徒に参加させ、就職の雰囲気をわからせるのに活用した。

(2) ジョブ・フェア(合同職場説明会)(実施している地域のみ回答)

- ・時期は10月実施では早い。11月実施の方がありがたい。
- ・合同企業説明会で実際に企業の方の話を聞くことで、生徒自身が、多くの企業を比較したり、求人票だけでは得られない情報を収集できたりするため、効果はあると思う。

(3) 就職準備講習

- ・決められた内容で実施するのは構わないが、各校の実情にあわせ内容も多少変更できないか。
- ・昨年度から参加しているが、生徒たちからは大変参考になったという意見が聞かれている。また、手話通訳者の派遣もしていただきありがたい。【特別支援学校】

(4) 未就職卒業生就職支援事業等

- ・面接指導や求人開拓、障がい者雇用の相談、学校と連携して情報提供等もしてくれるので大変役立っている。

4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ジョブサポーター)等の就職支援

- ・就職希望者への講話、面接練習でお世話になった。講話の際、終了後に個別相談の時間を設けたが、教員には相談しにくいことを話せた生徒が多く、予定時間を大幅に超過してしまうくらいだった。
- ・障害がある生徒の就職活動について相談窓口までの案内をしていただき、ありがたかった。
- ・卒業後、転居する生徒への求人の相談も熱心に行ってくれた。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施するガイダンス事業)

- ・管内のハローワーク担当者に講義をしていただいた。毎年生徒にも教員にも好評である。

(3) その他・要望・意見

- ・ハローワークの学卒担当の方の人数が少なく、生徒の予約がすぐには取れないことが多かったので、人数を増やしてほしい。【定時制】
- ・ハローワークからの各種通知が流れてくるのが遅い。

5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・文部科学省と連携してデュアルシステムを拡充してほしい。
- ・昨年より、就職支援を必要とする生徒が一段と増加しており、SCCの必要性はより高まっている。就職の多い学校には定着できるように制度化してほしい。
- ・高校生の技能講習・資格取得の費用を補助金などでもっと安価にしてほしい。

6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について

- ・3ページから2ページに変更になるのはありがたい。就職指導で参考になった高卒者の採用、離職状況がカットされるのは残念だ。
- ・情報が地域によって断片的に伝わっており全体像がつかみにくい。学校の意見を反映してほしい。
- ・手取り額の部分が削除されるのはよくない。残してほしい。
- ・求人連絡・推薦数の欄は残してほしい。
- ・求人票に記載されている個々のデータについて、その意味が分かるパンフレットを配付してほしい。(産業・職業分類に記載された番号が、厚生労働省の産業・職業分類コードであることなど)
- ・「4 選考」の欄に就職応募書類の送付先住所の欄を新たに設けてほしい。
- ・電子データを学校が活用できる幅が広がれば、業務の簡略化が見込まれる。
- ・福利厚生・勤務状況がわかるような求人票を希望する。

7 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点

(サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて)

- ・生徒へパスワードを公開してしまうと、企業との直接のやりとりや保護者も閲覧できてしまうためより就職指導が複雑化してしまうことが懸念される。
- ・条件の入力を少なめでも検索できるようにしてほしい。充足した企業は削除して常に最新の状況にしてほしい。
- ・生徒が広範囲にわたって在住しているので、かなり活用している。パスワードについては、引き続き生徒には教えない方がよいと思う。
- ・スマートフォンから対応できるようにしてもらいたい。

(2) 新たに希望する追加機能など

- ・追加求人や充足求人が分かるようにしてほしい。
- ・検索システムの機能がもっと細かくなると良いかと思う。
- ・募集が終了した企業を消してほしい。
- ・「企業名」からピンポイントで求人を表示する機能

8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点

- ・今後就職する際に活用するのか。不明点だらけとなっている。
- ・管理や引き継ぎに十分な時間を取ることが難しいところが不安。
- ・「キャリア・パスポートの活用事例」の特別支援学校用のものはあるのか。

9 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望)

- ・生徒の居住地のハローワークとの連携がもっと密だとよい。
- ・この春卒業した生徒で就職はしたものの10月に退職。その後ハローワークに相談し面倒を見てもらっている。そのような支援が心強く感じている。
- ・書類や出願、2次募集などで細かい点について相談に乗ってもらい助かっている。中退者への職業紹介も支援してもらいたい。
- ・外国籍の生徒や障害者手帳を持っている生徒に対し、適切なアドバイスや支援をしてもらっている。
- ・障害者手帳の申請が必要と思われる生徒、保護者に対してハローワークの職員が説明をしていたので、保護者が手帳の申請に前向きになってくれた。

10 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載

- ・統計・報告の書式を統一してほしい。(①②)
- ・会社見学の手順や手続きを一律にしてシステムティックにほしい。(④)
- ・総務省と文部科学省の横の連携を密にほしい。学校基本調査では総務省の日本標準職業分類に従って内定者の就職を分類している。専門的・技術的職業従事者に対する文部科学省との認識が違うため、毎年のように、県の統計課より分類訂正を求められている。(②)
- ・「学校基本調査」は日本標準職業分類に基づいており、厚生労働省の調査等は厚生労働省分類に基づいているので、統一してほしい。(①②)
- ・産業分類および職業分類について、総務省と厚生労働省で、表記やコードを統一してほしい。(①)
- ・職業内容を紹介したDVDがほしい。(①)
- ・来年度、進学向けの調査書が変更になるが就職向けはどうか職安では把握していなかった。文部科学省と厚生労働省とが協議し、是非統一してほしい。(①②)
- ・e-ポートフォリオについて、高校生の進路すべて(就職・専門学校・大学・短大)で使えるものになればよいと考える。(①②)
- ・小企業に見られる労働環境の未整備の対策も重要である。特に時間外手当の未支給や人手不足による労働時間の延長、OJTの研修不足など卒業生からよく聞かれる。(①)
- ・発達障害が疑われる生徒・中退者への就職活動支援を充実してもらいたい。発達障害の生徒、

また、障害者手帳を取得していないがその傾向が強い生徒について、受け入れ可能企業のリストがあるとありがたい。求人票を作成するすべての企業に、障がい者の受け入れについての実情や受け入れ体制の状況などを調査し、その結果を学校など必要がある者に対して開示していただきたい。(①)

- ・就職指導やキャリアカウンセリングは、学校現場の中では対応できる職員に限られる。また、就職書類や企業情報の収集整理、さらに就職関係の来客対応には多大な時間と労力を要し負担が多い。専門的な人材の配置、具体的な書類管理ノウハウや相談業務について研修等も検討してほしい。(②)
- ・求人番号を入力するだけでExcelにWardを落とせるシステムを作してほしい。毎年同様の意見が複数上がってきているが全く実現していない。入力に要する労力が非効率的で勿体ない。送られてきた求人票をすぐにデータ化できれば生徒への示し方を工夫することができる。(①④)
- ・学卒担当の人数を増やしてほしい。(①④)
- ・『障害者の新卒非公開(指名)求人』の場合、「補足事項・特記事項」に次の項目を御記入いただきたい。(学校名または個人名、時給・日給の場合はその金額、手取り額、入社日、試用期間があればその期間の労働条件)【特別支援】(①④)
- ・ハローワーク、文部科学省など、様々な機関から、同趣旨のアンケートや調査が来る。一本化してほしい。(①②④⑤)
- ・就職準備講習事業はありがたいが、日時が決まりが遅く、もう少し早めに決定してほしい。(①)

(東京ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・求人状況全般にわたり良好。事務、販売、運輸、建設、警備、介護、飲食関係、メンテナンス(水道・ガス・電気等)や空港などのサービス、保安検査などで大量採用など、さまざまな職種で増加。10月以降もその状況が続いている。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・求人そのものを見ないとする学校がほとんどである。
- ・登録型派遣、常用型派遣、無期雇用派遣の区別を理解していない教員も多い。

(3) 採用試験の状況

- ・筆記試験を実施する企業が増えた(適性検査、一般常識、作文等、学科試験など)。
- ・学校を通さず、直接生徒に内定通知等の連絡を取る企業が複数あった。ハローワークから事業所に配布している「新卒者募集のために」の図の中に、生徒にも合否通知をするように矢印の記載があるが、それを優先順位と認識している結果であると思われる。
- ・雇用に積極的な企業が多く見受けられる。
- ・昨年度より1回目の入社試験で内定数が増加。
- ・求人票に記載がないのに、適性検査が行われた。
- ・選考が2回課されることが増えた

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・希望企業が台風被害のための求人取り消し(1件)。
- ・台風で計画運休になり、試験が延期になった。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・羽田空港に近い学校では、空港関連の求人が多い。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・毎年経済的な事情で数名2学期(10月ごろ)から活動を始める生徒がいるが、今年は多い。
- ・今年度は進学希望から就職希望へと変更する生徒が増加した。
- ・当初進学を希望したが経済的に厳しく、就職へ変更する生徒もいた。
- ・進学志向の強い学校では、少数の就職希望者に対する指導が行き届いていない。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・内定取消はない。
- ・希望企業が台風被害のため求人を取り消し(1件)。応募直前に求人取り消しの例があり。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・「なし」「わからない」「特記事項なし」と回答した学校が多い。
- ・短大、専門学校生が同じ試験会場にいた例があった。

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・販売、サービス、建築、保守点検、介護などが増え、応募も増加。
- ・求人継続する事業所や、二次三次の案内を次々に送付する企業が増加。
- ・枚数の多いファックスを複数回送付してくる企業がある。
- ・電話での問い合わせ(求職者の有無)や、来校しての求人も増えた。
- ・求人数が増加しているため、充足していない企業が多くある。追加の募集を続けている。
- ・書類提出や面接時期が遅くなる傾向がある。

- ・二次以降でも採用に対する熱心さが伝わる。
- ・例年に比して内定数（9、10、11月）が1.5倍増になった学校があった（通信制）。

(10) その他

- ・特になし。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)

- ・「問題なし」「該当なし」「遵守されていた」と回答した学校が大半。
- ・一部業者による高卒の企業説明会が、ハローワーク主催の合同企業説明会と競合しており懸念している。
- ・職場見学にもかかわらず、体験型アルバイトを指示してきた企業があった。

(2) 応募書類

- ・「問題なし」「該当なし」「遵守されていた」「報告なし」と回答した学校が多い。

(3) その他

- ・選考当日に「同意書」を書かされた生徒がいた（通報済）。
- ・内定後の「内定式」のお知らせがあり断ったが、式に参加していた他校生もいたらしい。
- ・「内定式」は授業に支障のない範囲でお願いしたい。
- ・近隣の県の企業の中に高卒求人の採用選考の流れが、まったく理解できていないところがあった。
- ・9月に応募し、面接選考が10月、結果も10月10日まで伝えないケースがあった。
- ・一部の企業の選考試験において家族構成について質問するなど三局要請文違反があった。

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1) 就職面接会

- ・希望者に周知し、積極的に参加を促している。
- ・専門高校でも、希望する生徒がいれば、参加させている。
- ・ほとんどの就職希望者を参加させた学校もあった。企業の採用担当者や他校の生徒と接することで、就職活動に対する意識づけや、視野を広げる機会としている。
- ・「面接会」、「説明会」等の区別がつきにくく、都内と近隣の県とで内容の相違がある場合もある。

(2) ジョブ・フェア(合同職場説明会)(実施している地域のみ回答)

- ・二次対策として参加させる。

(3) 就職準備講習

- ・進路ガイダンス、講話、適性検査、マナー講習、面接指導など、生徒の就職活動に生かした。
- ・職業講話として心構えを講演していただいた。
- ・職業指導官による面接指導・マナー講習。
- ・9月以降も必要に応じて実施。
- ・面接練習・職種・企業選び求人票の見方など。
- ・レディネステストの実施。
- ・職安主催の面接トレーニングに必ず参加させている。
- ・主に2年生の2月に実施（グループワーク等）。

(4) 未就職卒業生就職支援事業等

- ・ハローワークのジョブサポーターが、未決定者の就職相談、就職ガイダンス、面接指導など学校を全面的に支援している。
- ・東京都の自立支援チームと連携し、ユースソーシャルワーカーが週3回学校に常駐し、特に支援を必要とする生徒を中心にサポートしてくれている。
- ・卒業生の指導まで学校の対応が行き届かないと感じている学校が多い。
- ・卒業前にこの事業について連絡するなど、就職未決定者への案内を行っている。
- ・卒業生の状況を報告し支援を受けている。
- ・卒業時に未内定の生徒をハローワークと連携してサポートしてもらっている。

4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ジョブサポーター)等の就職支援

- ・就職相談や面接指導、ガイダンスなど、年度初めから定期的に協力していただいている。
- ・内定者ガイダンス、進路ガイダンス。
- ・生徒がハローワークに直接出向いて相談。
- ・就職未内定卒業生への対応。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施するガイダンス事業)

- ・合同ホームルームで実施。
- ・希望進路別のガイダンス。
- ・マナー講習。
- ・求人票の見方指導。
- ・講話と職業適性検査、労働講話。
- ・保護者対象説明会。

- ・就職に向けての心構え、面接指導など、年に10回程度実施している学校もある。
- ・2学年対象「労働者の権利と義務」。
- ・ハローワークの担当官による職業講話、個人職業相談（島しょ）。
- ・年2回こちらからテーマを掲示して、生徒向けに講演をしてもらっている（島しょ）。

(3)その他・要望・意見

- ・特になし。

5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて（具体的に）

- ・高卒者が働ける職場の確保、就職機会の拡大、生活保護世帯の生徒の正規労働への意欲喚起。
- ・ジョブサポーターの拡充、キャリア教育関連の研修の拡充。
- ・規定に違反する企業への公表も含めた指導。
- ・普通科高校にとっては「指定校」の仕組みが不利に感じられる。機会を平等にしてほしい。

6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について

- ・3枚から2枚になることは、整理する点では良いが、必要な情報が減ることはデメリットである。
- ・応募前職場見学についての情報は、「選考」の欄からはずしてほしい。（複数）
- ・給与の手取り額と住み込みの場合の手取り金額は残してほしかった。（複数）
- ・社会保険料や税の表示がないことは、問題である。社労士会、税理士会の見解も聞きたい。
- ・変更内容についても現場の声を聞いてほしかった。
- ・急な変更のため、次年度用の「進路の手引き」の原稿への対応に苦慮している。
- ・新しい「求人票の見方」の資料提示、ハローワークによる解説を早めに行っていただきたい。
- ・特別支援学校は企業に求人票を出してもらおうタイミングが変更の時期とかぶるので、非常に困る。

7 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1)その活用例と意見・要望・改善してほしい点

（サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて）

- ・フリーワード検索がヒットせず、0件になることが多い。
- ・ID、パスワード制ではなく、パスワードのみの入力にしてほしい。
- ・検索がやりやすくなるとよい（住所と職種で事務所の検索など）。（複数）
- ・パスワードが長すぎる。
- ・パスワードを生徒に伝えることには不安がある。
- ・検索エンジンが使いにくい。完全一致でないと検索できないケースが目立つ。（複数）
- ・検索画面が生徒にとってわかりづらい。
- ・求人先の探索にはとても有効である。特に、生徒にも検索できる点が良い。
- ・求人が終わったものも参考までに表示してほしいが、すぐに充足とわかるようにしてほしい。
- ・パスワードを教えた生徒の名簿の作成、管理は実際問題として難しい。

(2)新たに希望する追加機能など

- ・企業名からの検索をしやすくしてほしい。
- ・「月報」の内定先企業の求人票番号を入力すると企業データが反映されるようなシステムにしていただきたい。
- ・求人票入力等のデータ（企業名や住所など）が、学校でも電子データで利用できるとよい。
- ・生徒配布用資料作成のため、求人票から必要な企業の必要な情報のみを抽出できる機能がほしい。

8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点

- ・教員負担が大きく、仕事量が増加してしまう懸念がある。
- ・知ってはいるが、どの様になっていくか不安、よくわからない。（複数）
- ・東京都からはまだ正式な通知が届いていない。
- ・自己理解・目標設定ができない者も多い。他、外国籍や何らかの障がいを抱えている者もいる。一律に実施できるか不安。
- ・本校で実施するにあたり、経験が乏しい生徒や文章化するのが難しい生徒が多数いる。
- ・取り扱い例があるとありがたい。
- ・情報の共有や実施検討に時間がかかると思われる。

9 ハローワークとの連携について（好事例、期待、意見、要望）

- ・ジョブサポーターと信頼できる良好な関係を築いている学校が多い。今後も事業を継続していただくとともに、ジョブサポーターの増員をお願いしたい。
- ・ジョブサポーターの方に頻繁に来校していただき、生徒との個別面談や面接連絡を実施してもらっている。
- ・就職希望者が少ない学校に対してもきめ細かく対応してくれている。
- ・ジョブサポーターと連携して、非常に多くの就職相談の機会を得ている。今後とも連携していただきたい。
- ・特に10月以降の就職活動の際に大変お世話になっている。

- ・普通科高校における特別な支援が必要が生徒に対して、丁寧に対応していただいた。
- ・ジョブサポーターの生徒個人への指導が的確できめ細かい。今後も更に連携を深めていきたい。

10 関係機関（①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等）に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載

- ・一人一社制を今後も堅持していただきたい。これが維持できないと、内定辞退など大卒採用で発生している様々な問題が、高卒採用にも及ぶ危険性がある。（①②④⑤⑥）
- ・似通ったアンケートが機関ごとであり、同じ回答が多く、統一してほしい。（①②④⑤⑥）
- ・「特別な支援の必要な生徒」への支援を充実させてほしい。（①②④⑤⑥）
- ・求人急増、処理すべき項目の増加に伴い、事務処理の負担が急増し、本来の就職指導に当てる時間が削減されている。人的支援をお願いしたい。（②⑤）
- ・ハローワークを通じた高卒就職システムと、求人サイトや求人斡旋業者による高卒就職との兼ね合いについて、統一見解がほしい。学校裁量での対応に苦慮している。（①②③④⑤⑥）
- ・各種変更について国の機関のみならず、東京都からの具体的な情報提供がほしい。（②⑤）

（北信越ブロック）

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向（変化のあった業種、職種等について）

- ・ほとんどの業種で求人数が増加している、特に建設業の求人が増加している。
- ・これまで高卒求人を行っていない企業が高卒採用を始める企業が増え始めた。
- ・近県からの求人が増え始めた。
- ・大手の企業が若干求人数を減らした感じである。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・多少求人はあるが、応募する生徒はいなかった。
- ・派遣会社の正社員の求人が多少あった。

(3) 採用試験の状況

- ・おおむね良好であるが、適性検査、一般常識、SPI、面接、作文試験を課す企業が増え、選考が少し厳しくなった印象がある。
- ・希望者のほとんどが9月中旬に受験した。求人状況が良くても企業の採用基準は変わらず、二次募集に臨む生徒もいた。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・台風による洪水の影響で新幹線が止まり急遽夜行バスに変更して受験した。
- ・採用試験の時間が30分遅くなった企業があったが、早めのご連絡をいただいて助かった。
- ・台風19号の影響からか、長野市に本社を置く企業からの内定通知が届くのに日数を要した。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・学科の特徴を生かした業種からの求人が多い。また、県内をはじめ大都市圏からの求人も多い。
- ・土木科、建築科、電気科、機械科、福祉科の生徒の求人が多く、農業や食品の求人が少ない。
- ・ほとんどの生徒が県内就職を希望した。【普通高校】
- ・食品や製造関連を希望する生徒が多かったが、それに見合う数の求人があまりなく、苦戦した。高校在学中の専攻が直接仕事に結びつく例は、それほど多いとは言えない。【農業高校】
- ・地元就職希望者が多い。【商業高校】
- ・地元就職者が多数を占め、県外就職が少ない。【工業高校】

(6) 就職を希望する生徒について（進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて）

- ・学校紹介がほとんどで、多少縁故や進学から就職、または就職から進学への変更がある。
- ・就職を希望してはいるが何をしたいかが明確にならない生徒や、アルバイトからといった形態も多く、指導に困ることもある。
- ・公務員が増加。
- ・進学資金が不足し、学校紹介によらずアルバイトで資金をためるといったケースが増えてきた。
- ・三交替制を敬遠するなど、労働時間を考慮して職場を選ぶ傾向が強くなってきている。
- ・支援学校では、就業体験を3週間程度行わせて頂き十分に考えて就職先を決定している。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・求人取り消しとなった企業が多少あったが、影響があったのは2件有り、すぐに他の会社で対応した。
- ・研修後本人が内定取り消し。（1社）

(8) 上級学校（四大・短大・専門学校等）との競合状況

- ・公務員試験不合格の後、専門学校に進学を希望する生徒がいる。

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・二次募集の案内が多数あり、一次不採用の生徒も早期に内定を得ることが出来た。

(10) その他

- ・合否の結果を1ヶ月後に連絡された。しかも求人票と違う職種でお願いできないかと言われた。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学（早期選考がないかなど）

- ・応募前見学を入社試験の前提とし、見学をしない生徒は受験できないとする企業があった。（1校）

- ・「内定を出すから受けに来てほしい」と言われたケースが1件あった。
- ・複数応募という形態は学校の斡旋という形と整合性が取れないのでやめてほしい。
- ・生徒の希望を優先し見学日を決定しているが、数社に見学に行くので、日程調整に苦労する。
- ・高卒求人初めて行う企業もあり、県内の職場慣行の内容を知らないために説明をして理解してもらう必要があった。
- ・保護者の同伴見学が増加している。

(2) 応募書類

- ・年号が変わり、令和版の履歴書をハローワークからもらったが、部数に限りがあった。

(3) その他

- ・高校生の採用が初めてという企業が増加し、申し合わせを周知する必要がある。
- ・現状と同じく10月までは1人1社制でよい。

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1) 就職面接会

- ・企業との情報交換が、かなり役立っており、生徒の感想からも実施していただいて良かった。

(2) ジョブ・フェア（合同職場説明会）（実施している地域のみ回答）

- ・生徒の個人参加で良いと思うが、学校側の理解が得られない。
- ・多くの企業の説明が聞ける貴重な機会となり、この説明会にて企業を決めている生徒もいる。

(3) 就職準備講習

- ・外部の講師を招き実施し、面接指導・職業適性検査・履歴書の書き方など非常に参考になった。

(4) 未就職卒業生就職支援事業等

- ・個別にきめ細やかに面談していただき、生徒の進路決定を支援していただき助かっている。
- ・卒業してしまうと高校からはなかなか支援ができないので、どのように引き継いだら良いか検討の余地があると思う。

4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員（ジョブサポーター）等の就職支援

- ・求人開拓や就職先についてのアドバイス・情報提供から、就職ガイダンスやサマー求人企業説明会において大変お世話になり、大いに役立っている。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等（ハローワークが実施するガイダンス事業）

- ・労働局主催の高校生就職ガイダンスを実施した。丁寧な指導で、生徒の受験に対する意識が高まり、同時に受験準備も出来た。（1校）
- ・同じ内容だとしても、学校職員が話すのとはまた違った受け止め方を生徒がすることもあるため有効である。
- ・今後始まる就職活動に大いに役立つ内容で、生徒の就職に対する意識の向上にも役立っている。
- ・サマー求人説明会は大変有意義。参加企業が増えている。多くの会社から説明を伺いたいので、なるべく多くの企業が参加できる運営を考えていただきたい。
- ・春休みの開催（企業合同説明会）は可能か？
- ・就職希望者にとって求人企業説明会は一大行事だが、学校に直接来られる求人も大事にしたい。
- ・生徒たちの就職への意識付けに良いが、同業種でも他に良い企業はたくさんあると思われるのに、参加している企業を中心に考えてしまうところも見られる。

(3) その他・要望・意見

- ・ハローワークに職業適性検査をしていただき、資料の分析の仕方、有効な活用法、生徒へのフィードバックなどについても指導していただけるとありがたい。
- ・今後の継続をぜひ、お願いしたい。企業見学会等の機会を増やしていただけると助かる。
- ・求人票スタートから、応募前職場見学、応募書類の発送までの期間が短く、就職希望生徒が多い学校にとっては大変厳しい日程である。

5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて（具体的に）

- ・発達障害の生徒への企業理解を求めてほしい。また、別途説明会を実施してほしい。
- ・求人票公開日を早めてほしい。もう半月でも早めていただけると助かる。
- ・近年、一人一社制の応募を廃止する議論がなされているようであるが高校生が自分で企業調べを行い、複数の企業にエントリーするような仕組みは、学校の授業や行事等の関係で困難である。（大学生等のような就職活動を高校生が行うのは難しく、高校側で応募に関する業務を行うことになると業務量が大幅に増加する）
- ・伝統工芸等の産業従事者への情報提供と関心のある生徒への情報提供がほしい。
- ・インターンシップ関係の書類発送経費などの必要経費はすべて予算化してほしい。
- ・求人説明会的な合同説明会を厚労省・民間が連携し春休みに実施していただくことは可能か？

6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について

- ・求人票が2枚にまとめられているのでありがたいが、注目すべき所の活字を大きくしてほしい。
- ・応募先を迷っている生徒には青少年雇用情報は参考になる。
- ・推薦数と採用についてはどのように把握すればよいか分からない。
- ・指定校求人であることはどこで分かるか。
- ・賃金形態が出ていない。また、住み込みの給料が分からない。（月給、日給など）
- ・求人票の選考方法の欄について、ないものは明確に“なし”という項目があった方がよい。
- ・代表者名等に役職があれば記入してほしい。
- ・非公開求人（今後もある？）の場合、学校ごとの応募者数をどのように把握すればよいか。

- ・選考欄に紹介状の送付先住所を記載してほしい（送付先が本社とは限らないため）
- ・労働条件等が1ブロックになり、青少年雇用情報が付加されていて、とても見やすく活用しやすくなると思う。
- ・(1)3 労働条件等「通学」
この欄が前回より小さくなったのは、働きながら学校に通う生徒が少なくなったためだと思われるが、可能性が0でない限り、前回の様式が妥当ではないか。
- ・(2)3 労働条件等「毎月の賃金」
下記のような形にすると見やすくなるのではないか。

月額(a+b+c) 円 ※この金額から所得税・社会保険料等が控除されます			月額労働日数 日
基本給(a)	定額的に支払われる手当(b)	特別に支払われる手当	固定残業代(c)
	手当 円		
	手当 円		
	手当 円		
	手当 円		

7 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点

(サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて)

- ・全国求人への把握には一定の効果がある。
- ・2次募集出願のために、採用が終了したところは閲覧できないようにしていただきたい。
- ・企業名等での検索の精度が著しく悪く改善してもらいたい。新しく出たものがわかりにくい。
- ・採用が終わった企業はハローワークに必ず報告し削除してください。
- ・これがないと県外への就職斡旋ができないくらい大変役に立っている。
- ・現在は教職員が生徒から申し出があった場合に、閲覧して情報を知らせているが、生徒が自由に閲覧できることが望ましい。生徒自身でアクセスできるように、希望者へのIDとパスワード配布を検討していただきたい。

(2) 新たに希望する追加機能など

- ・企業名での検索が出来ればよい。
- ・キーワードの入力でそれに関わる職種、業種がヒットするようにしてもらいたい。
- ・ハローワーク別の企業一覧。
- ・二次募集を継続している企業の求人が明らかになるような機能。
- ・就業地で検索できる機能があるとよい。

8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点

- ・年明けに教育委員会から指示が来るので、今のところ分からない。
- ・小学校から高等学校までのキャリア教育に係わる生徒の諸活動を記録・蓄積することは良いことではあるが、担任の業務が増えることは望ましくない。
- ・キャリアパスポートに縛られる就職指導になる恐れがある。
- ・キャリアパスポートの内容と実際の就職が異なる場合の指導が難しい。
- ・手帳のようなものを継続的に持たせるのか、eポートフォリオとの関連性はどうか。
- ・不明な点が多く、何をどこまでどのように準備しておけばよいのか？非常に不安。
- ・通信制課程や他の学校から編入・転入してくる生徒にどのように対応するのか。

9 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望)

- ・学校からの申し出をひたすら待つばかりではなく、未内定者のいる学校に対して率先して連絡、紹介などしてほしい。
- ・発達障害の生徒への企業理解を求めてほしい。また、別途説明会を実施してほしい。
- ・通信制の高校は、高卒求人だけでなく一般求人でもお世話になっている。
- ・ハローワークにおいては、学卒ジョブサポーターさんを筆頭に大変丁寧にご対応いただいている状況であり感謝している。
- ・障害者手帳を持つ生徒の就職活動など、本人と保護者の面接から面倒を見てくれてありがたい。

10 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、

⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載

- ・10月1日に内定式を実施する企業が有り対応に苦慮している。(①)
- ・労働局からの許可を得ているとの話ですが、学校としては授業優先に考えている。対応としては、授業に影響がない場合参加。影響のある場合日程変更をお願いした。(①)
- ・各種統計・調査等が様々な各分野から依頼されているが、同様の内容のものについて連携及び統一することはできないか。(②④⑤)
- ・障害者雇用についての理解と雇用拡大。(①)
- ・各種統計の報告が年度末・年度初めに集中するが、できるだけ担当者の負担軽減になるよう各種統計の一元化が図れるように、関係機関の連携を図ってほしい。(①②④⑤)
- ・企業との合同説明会が春休みあたりに実施されると、生徒も就職に対し積極的な取り組みができると思われる。民間企業と検討いただけたらと思う。(①)
- ・大学入試英語成績提供システムの急な中止➡2020年度のセンター試験はどうなるかなどしっかりした通知を出していただきたいと思います。(②)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・職種欄がより複雑になっている。企業の業務内容を具体的に示しているものがある。
- ・昨年度に比べ、求人票の郵送による送付が急増している。
- ・昨年度は大手からの求人が増加傾向にあった。今年度は製造大手の採用手控えがあったものの、地元の中小企業からの求人が増加している。
- ・製造・サービス・流通・運輸輸送の求人が増加した。大卒から高卒に求人を切り替える企業があった。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・派遣求人より請負求人(愛知県からの求人)が目につく。
- ・アパレル関連の企業で、請負形態の求人や派遣会社の正社員募集が増加している。

(3) 採用試験の状況

- ・特定の企業に応募が集中して、競争倍率が非常に高い企業があった。
- ・ここ数年、面接だけでなく一般常識や作文を追加する企業が増加している。
- ・受験者が話しやすい話題を投げかける面接試験が多かった。
- ・採用試験で家族の状況、結婚する予定などプライバシーに関する不適切な質問があった。
- ・求人票に記載されていないのに、当日急に面接、学科試験、適性試験を実施する企業が多い。求人票は正確に記載してほしい。
- ・就職試験日が企業の都合により10月初旬に実施、選考結果発表は10月中旬となった。他の生徒が内定をもらう中、待たされる生徒、保護者の身になってほしい。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・台風接近により、一部の企業で選考日程延期があったが、連絡はスムーズに行うことができた。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・学科試験より面接を重視する企業が多い。
- ・職種より、給料で企業を選択しようとする生徒が多い。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・来年以降の就職への不安感から、進学から就職に変更した生徒がいた。
- ・公務員希望が増加した。就職希望者数は、例年並みである。
- ・年間休日数や、土・日曜日休みを希望するため、最終的にサービス業から製造業へ希望を変更する生徒が多い。
- ・保護者の意向が強く、生徒も保護者の意見に従う傾向にある。
- ・地元志向、大手企業指向である。
- ・経済的な理由で進学をあきらめ、就職に変更する生徒も増えてきている。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・ほとんどの学校で該当なし。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・公務員、鉄道関係で、不採用の場合に専門学校へ行く生徒がいる。(併願している)

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・二次募集や追加募集も昨年度より増加傾向にある。生徒の希望職種と合致していない求人が多い。

(10) その他

- ・県外から郵送で送られてくる求人票が非常に多いが、責任を持って生徒に紹介できる企業か判断が難しい。
- ・同じ求人票を何度も送付したり、先に求人票を郵送した後、改めて同じ求人票を持参したりする企業がある。重複受付をするため事務処理に影響がある。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)

- ・応募前見学後、学校に生徒に関する問い合わせがあった。
- ・見学時にアンケートと称して質問事項に記述で答えさせる事例がある。何の準備もしていない生徒は配属先の希望など、よく考えもせずに記入してしまう。
- ・1人3社程度の見学を推奨し、企業も趣旨を守って、見学を受け入れてくれた。
- ・職場見学の受け入れ人数を機械的に決める、見学日が1日しか設定されないなど、不都合がある企業も存在した。
- ・授業のある平日に見学会を行う企業があった。生徒の授業に支障がないようにしてほしい。
- ・応募前見学の申込み方法が、専用の申込書、専用サイト、メールなど多様である。対応に苦慮している。申込みの様式等の統一を願いたい。

(2) 応募書類

- ・不採用となった時、履歴書などの書類が返却されない企業があった。
- ・高校生にも大学生の採用と共通の資料を送付し、成績証明書等提出を求められた。その都度問

い合わせしている。

(3)その他

- ・一人一社制を崩し、複数の企業を見学すると、受験先決定が遅れる。希望企業が決まらない場合も多発する。就職試験日を遅らせるなどの対応をしなければならない。
- ・人材不足から新たに高卒求人をする企業も多いが、日程の把握や生徒へ直接接するなど高校生の就職慣行についての理解が不十分なところが多かった。
- ・生徒への連絡は書面で、学校を通じて行ってほしい。
- ・内定承諾書に個人情報（電話番号）などの個人情報の記載を求める企業が一定数ある。
- ・合否連絡が書面でない（電話のみ）企業があった。
- ・就職試験実施後1週間以内の連絡が徹底されない。不採用となった生徒の動きが遅くなり、就職活動に支障をきたす。
- ・高卒求人への新規参入企業に対して、ルールや手法などの事前指導を徹底させてほしい。実際の担当者に伝わっていないケースがある。
- ・就職解禁日以前に就職試験を計画する企業がある。その都度確認しているが、周知徹底してほしい。
- ・年内の平日に内定式、休日に懇親会等への案内がある。制服の採寸等、やむを得ない場合もあるが、規則通りにしていただくよう関係機関から徹底してほしい。
- ・履歴書は手書きでなければならないのか。

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1)就職面接会

- ・学校独自で企画している。
- ・市雇用対策協議会主催の校外実施の面接指導において、他校生徒とのグループディスカッションの練習があり、効果的であった。

(2)ジョブ・フェア（合同職場説明会）（実施している地域のみ回答）

- ・実施していない学校もあるが、多くの学校は自由に参加させている。

(3)就職準備講習

- ・夏季休業中に活用し、効果があるので、今後も継続したい。

(4)未就職卒業生就職支援事業等

- ・ハローワークを活用した就職活動も可能であることを伝え、活用を促している。

4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1)就職支援相談員（ジョブサポーター）等の就職支援

- ・毎月の就職状況報告や、管轄地区の会議などで、コミュニケーションを図っており、就職支援体制は整備されている。
- ・面接指導、就職に向けての心構えに関する講習など、大いに助けてもらっている。

(2)生徒、保護者への講義・講話、企業説明等（ハローワークが実施するガイダンス事業）

- ・「キャリア探索プログラム」の派遣講師は好評である。
- ・夏休み中に3年生就職希望者に面接ガイダンスを実施している。

(3)その他・要望・意見

- ・ジョブサポーター一定数削減による学校へのサポート不足を感じる。

5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて（具体的に）

- ・高校生の求人公開を6月にしてほしい。
- ・外国籍生徒が増加してきている現状を踏まえ、外国籍生徒の母国語対応の検査の作成活用をお願いしたい。難しい日本語のため、適切な結果が反映されず、不合格になるケースがある。
- ・サポートステーション等の施設はあるが、外国籍生徒の日本語スキルアップのカリキュラムがないので、充実してほしい。現時点でどこに相談すればよいかわからない。
- ・発達障等の特性を抱える生徒について、支援の充実をお願いしたい。適性検査等の結果で採用されないケースがある。また、企業に生徒の特性を理解していただくための工夫が必要である。

6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について

- ・求人票から求人一覧表を作成しているため、学校へ電子データを提供してほしい。
- ・誰のための求人票か考えてほしい。
- ・見やすい形式への変更を期待している一方で、文字数の削減等で必要な情報までなくなってしまわないか心配している。形式の変更で各企業が対応できるように支援もお願いしたい。
- ・記載してほしい項目（または別紙等で情報がほしい）
 - 「2 仕事の情報」欄に求人依頼校、適性検査の正確な種類や学科試験の時間
 - 「3 労働条件等」欄に手取り額、有給休暇の最大日数、保険料や控除額、所得税・社会保険料等の実績
 - 「4 選考」欄に応募先（書類送付先）住所（本社と支社がある場合）担当者の役付、氏名は姓名とも記載してほしい。
- ・求人票に企業のWebページへリンクするQRコードを掲載してほしい。

7 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点

(サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて)

- ・求人がない業種・職種を生徒が希望している場合、大変役立っている。
- ・送付される求人票と同等の形式で印刷ができるようにしてほしい。
- ・求人の充足・未充足状況がその都度わかると指導上とてもありがたい。
- ・Web等に親しみのある生徒にとっては、活用しやすいサービスである。
- ・パスワードを生徒に伝えることを許可してほしい。そうすると、生徒と保護者が家庭でも閲覧が可能になる。

(2) 新たに希望する追加機能など

- ・企業名で検索、QRコードの活用など、多様な検索ができると活用の幅が広がる。
- ・求人票の内容をデジタルデータでもらえると、関係機関へ正確に統計等の報告業務ができる。
- ・バーコードがついているのだから、読み取り、学校で再度入力する手間を省く機能を付けてほしい。

8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点

- ・校種間での引き継ぎ時(中学から高校へ)に、様式や内容等の調整がスムーズにいくか。
- ・来年度に向けて、2学期より試行的に実施しているが、内容の確認等、教員の負担が大きい。効率よく効果的にできる形式を研究したい。様々な実施例があると助かる。
- ・個人情報のためクリアファイル等で保管することとなるが、校内にその場所をもうけることは困難である。
- ・その書式についても、学校設置者から指示があると考えている。
- ・ポートフォリオとの整合性について、職員への説明が難しい。キャリアパスポートを記入する時間の確保のためにLHRの内容を精選する必要がある。
- ・学びを再構築する時間の確保が、現状では難しい。
- ・情報が入ってこないため、何に困るのが分からない。
- ・小中学校ではどのように指導しているのか知りたい。
- ・総合学科で履修する科目「産業社会と人間」と「総合学習の時間」のポートフォリオとを、どう照らし合わせていったらよいか分からない。
- ・協力者会議を行うのは、都道府県教育委員会等、各地域・各学校のうちどこになるのか知りたい。
- ・高校卒業後の進学先や就職先への扱いはどうなるか。

9 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望)

- ・障害者雇用の進め方や、県外へ就職を希望する生徒の指導をしていただきありがたかった。
- ・採用で企業側の問題点が発生した際、指導してもらった。悪質なケースは情報を共有してほしい。
- ・名刺交換会は企業と学校が情報交換できる有意義な場となっている。
- ・毎年グランシップで開催される「高校生ガイダンス」によって就職への意識づけがされている。
- ・これまでFAXでのやりとりだったが、電子メールにさせていただいたおかげで仕事の効率が上がった。
- ・日頃から連携を図り、コミュニケーションが形成されており、今後も継続したい。

10 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、

⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載

- ・地元企業と連携したインターンシップ等は実施できているが、都市部で実施しているものへの参加へは大きなハードルがある。キャリア教育の地域格差についても、研究し、解消してほしい。(①②③④⑤⑥)
- ・多くの報告、調査の様式や方法を統一してほしい。(①②③④⑤⑥)
- ・内定後の企業説明会、見学会、内定式、健康診断、懇談会、各種研修、入社前課題等は高校生の学業優先の観点から、卒業後に実施するよう指導してほしい。(①②③④⑤⑥)
- ・就職試験日は学校休業日を除いた日時に統一してほしい。(①②③④⑤⑥)
- ・外国籍の生徒への面接の質問(国籍や在留資格)など関係機関で相談してほしい。(①②④⑤)
- ・最初の段階から1人複数応募可能は控えていただきたい。生徒や指導する高校現場の声を聞いてほしい。(①)
- ・同一業種・職種でありながら、職業分類と業務内容とが一致しない。統計情報に誤りが発生する。(④)
- ・ミスマッチを起こさないために、求人票に専門・技術の分類を厳格化してほしい。(④)

(近畿ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・新規求人が増加。
- ・県外、府外からの求人が増加。
- ・サービス、介護、建設、電気、物流、製造、飲食などが増加。
- ・公開求人票を持参する会社が増えた。

- ・求人票の送付を代行する業者が大量に求人票を送ってきて困っている。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・一部あったが、特に例年と変化はない。
- ・生徒自体が有期雇用や派遣求人を避ける傾向にある。
- ・条件が良いと派遣や有期ということがある。

(3) 採用試験の状況

- ・応募から試験までの期間が長い、結果の連絡が遅いところもあり、二次試験に向かうのに不利になる。
- ・平日の内定式や大学生との合同内定式が増加。授業を欠席して研修等に参加することは問題である。
- ・求人票と異なる試験があった。
- ・適性検査を実施する企業が増加。
- ・不適切な質問内容や本人の許可なく面接の様子を動画に撮ろうとした企業があった。
- ・一次応募での内定率が高かったが大手企業への挑戦が不調であった。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・台風の影響で採用試験が変更、延期になった企業もあった。
- ・企業と連絡を取り合い問題なく終わった。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・専門課程の特色を活かして就職につなげている。
- ・支援学校では自校開拓、現場実習を通して就労していくことが多い。
- ・通信制課程では、新卒でも年齢が高いと進路が厳しい。また、9月卒業生の就職支援が課題である。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・経済的事情により進学から就職、受験の失敗から就職を希望、家庭での進路相談が不十分のため就職希望、公務員希望から就職というケースがあった。
- ・自宅から通勤できる企業を希望する生徒が増加。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・事業所統合による求人取り消しがあった。
- ・企業の都合による求人停止があった。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・大卒求人が不調なため高卒求人に切り替える企業が増加。
- ・競合することもあるが影響をあまり感じない。

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・求人と生徒の希望が一致しない。
- ・人気の職種や企業は倍率が高く、採用レベルは落とさない。
- ・二次以降の求人数も増加しているが、応募前見学に行く日程が厳しい。

(10) その他

- ・同じ人物が違う企業の求人票をもって説明に来ることがある。
- ・代行業のためか、送付状と求人票に内容の相違があり問い合わせたが連絡がつかないケースがあった。
- ・保護者の意見が強すぎて、内定に至っていない。
- ・求人票で代表者の役職が抜けている、所在地が異なるなどのケースがある。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)

- ・職場見学は就職時のミスマッチを防ぐため生徒には良いが、付添教員の手配が困難である。
- ・保護者も見学可能な企業が増加。
- ・セキュリティや交通費支給のため、生徒の名前を聞く企業が増加。
- ・見学時に事業所からの質問があることもあり、指導を徹底してもらいたい。

(2) 応募書類

- ・不採用の際に応募書類が返却されないケースがあった。
- ・採用試験等の日時の記載誤りがあった。

(3) その他

- ・入社承諾書に保証人を求めてくることがあった。
- ・高卒求人に不慣れな企業が増加し、就職慣行に対する理解不足を感じる。
- ・一人一社制は是非とも堅持してもらいたい。

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1) 就職面接会

- ・支援学校では障がい者雇用開拓に利用している。
- ・生徒の意識を高めるのに役立っている。
- ・丁寧な面接練習や他校生との集団面接等で良い刺激になっている

- ・学校により利用状況が異なる。
- (2) ジョブ・フェア（合同職場説明会）（実施している地域のみ回答）**
- ・利用状況は学校により異なる。
 - ・参加企業の職種に偏りがある。
 - ・多くの企業が集まるので求人をしていない企業の話も聞ける良い機会であった。
 - ・取組の遅い生徒が動き出すきっかけになった。
- (3) 就職準備講習**
- ・利用状況は学校により異なる。
 - ・好評であるので継続実施を望む。
 - ・志望理由、面接対策など指導していただいている。
- (4) 未就職卒業生就職支援事業等**
- ・利用状況は学校により異なる。
 - ・予算や規模を増やしてさらに充実したものにしてほしい。
- 4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について**
- (1) 就職支援相談員（ジョブサポーター）等の就職支援**
- ・利用状況は学校により異なる。
 - ・いろいろな場面で親身になって相談に対応してくれて助かっている。
 - ・障がい者雇用や定時制生徒指導に役立っている。
 - ・定時制では、授業時間とジョブサポーターの勤務時間が合わず生徒との関わりが難しい。
- (2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等（ハローワークが実施するガイダンス事業）**
- ・利用状況は学校により異なる。
 - ・就職に向けての気持ちを引き締めるのによかった。
 - ・他校生と合同で活動することで良い刺激になった。
 - ・概ね好評なため継続実施を希望する。
- (3) その他・要望・意見**
- ・普通高校に在籍する支援が必要な生徒の就職について、ルール等を整理してほしい。
 - ・生徒がジョブサポーターの受け持ち地域以外の事業所に興味を示す場合もあるので、一括して事業所の情報が共有できるとありがたい。
- 5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて（具体的に）**
- ・アンケートが多いわりには、内容が反映されていない。
 - ・ガイダンス等の充実（単発ではなく定期的なサポート）、各種事業（サポステなど）の予算の増加。
 - ・高卒求人の拡大への働きかけ。
 - ・普通高校に在籍する支援を要する生徒の就職先について事業所への理解の促進。
 - ・高校生を指導する現場の意見を吸い上げる機会を増やしてほしい。
- 6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について**
- ・現場への丁寧な説明と早急に意見を吸い上げ、見直しを希望する。打診もなく勝手に変更することはやめてほしい。
 - ・求人票の扱いやすい電子データかWEB化をお願いしたい。
 - ・企業の利便性が重視され高校生にとっては見づらいものになっている。効率化よりも生徒のわかりやすさを優先すべきである。
- 7 「高卒求人情報WEBサービス」について**
- (1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点（サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて）**
- ・求人が充足しているのかどうかわかりにくい。頻繁な情報の更新を希望する。
 - ・職種の種別がわかりにくい。
 - ・パスワードを生徒へ伝えることには意見が分かれているが、通信制などは生徒と頻繁に面談できないため自宅での使用も許可したいという意見もある。
- (2) 新たに希望する追加機能など**
- ・検索機能の充実（細かな職種指定や企業名などのキーワード検索、ボーナスや退職金、就業場所の最寄り駅、路線から検索など）。
 - ・企業のHPへリンクする機能がほしい。
 - ・事業内容からの逆引き機能がほしい。
 - ・データのCSVでのダウンロード機能がほしい。
 - ・充足状況がすぐにわかる機能がほしい。
- 8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点**
- ・内容や実態がわからず、学校でも十分な準備ができていない。
 - ・早く情報をおろしてほしい。
 - ・教員の仕事量がさらに増えるのが心配である。
- 9 ハローワークとの連携について（好事例、期待、意見、要望）**
- ・年々、ハローワークの対応が丁寧になってきている。学校としても安心して送り出すことができている。

- ・就職に関する様々な情報を提供して頂きとても助かっている。特に、既卒生の就職指導に役立っている。
- ・就職後の事業所での様子などを報告していただけるとうれしい。
- ・ハローワークからの各種調査の電子化をお願いします。
- ・各管轄で高校現場に伝える内容に相違があるように感じる。ハローワークとして統一していただきたい。
- ・高校求人をはじめ出す事業所も増加しているため、応募書類だけでなく面接などについても丁寧な説明を希望する。

10 関係機関（①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等）に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載

- ・現場の意見を吸い上げ、実態に即した政策を希望する。（①②⑤）
- ・各自治体からの思いつきのような事業や調査に苦慮している。また調査に対する報告の期間が短い。（⑤）
- ・報告書類の提出先が多岐にわたるので、各種報告先を一本化してほしい。（①②③④⑤⑥）
- ・実業系学校や学科が脚光を浴びるような施策をぜひ打ち出してほしい。（①②③⑥）
- ・農業高校への就職支援の充実。（①②④⑤）
- ・普通高校に在籍する支援を要する生徒の障害（特に、発達障害）や定時制、通信制の生徒についての理解を事業所側に徹底させ、就職状況が改善されるよう企業側に働きかけてほしい。（①②④⑤）
- ・一人一社制を堅持してもらいたい。（①②③④⑤⑥）
- ・繁忙期だけでも進路指導部に臨時職員を要請したい。（①⑤）
- ・地方自治体の採用試験も民間と同じような時期での出願、試験のルールを作してほしい。（①②③⑤+総務省）
- ・障害者手帳の取得に至らない生徒に対する就職支援を希望する。（④）

(中国ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向（変化のあった業種、職種等について）

- ・前年と比べるとやや減少しているところもあるが、例年比較でみても求人数は多い。（前年同期比較でみると、運送郵便業が減少、製造業やサービス業は増加）
- ・他地域の企業からの学校訪問・求人票送付が増加した。
- ・国の雇用水準水増し問題を受けて、大規模な募集（国家公務員障害者選考試験）が行われた。このことにより、企業で働いていた障害者が会社を辞め、そちらに流れているという。その影響からか、今年は県外企業からの障害者求人の依頼が例年以上に多い。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・正規雇用が多いため、生徒の希望はない。
- ・有期雇用はごく一部、派遣求人はない。

(3) 採用試験の状況

- ・学力検査がなく、面接のみの企業が増加。人員確保したいという状況が見える業種がある。
- ・面接でコミュニケーション力や人柄を問われることが多く、そのことが合否に大きく関わっていると感じる。
- ・筆記試験にて一般常識を評価する企業もあり、一定水準以上を求める企業と人手が特に必要という企業と2極化しているように見える。
- ・試験前に調査書の欠席日数による受験辞退の通達あり。（1件）
- ・採用結果がなかなか通知されない企業があり、問い合わせをした。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・昨年度は就職ガイダンスや職場見学が中止になったが、今年度は特になかった。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・今まで求人のなかった企業からも募集有り。特に、県外からの求人が増加している。しかし、地元志向が強く、県外就職を希望する生徒が少ない。
- ・商業科の生徒は圧倒的に事務職希望が多く、家政科の生徒は調理、製パン、ブライダル、エステといった職種への希望が多かった。

(6) 就職を希望する生徒について（進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて）

- ・就職内定率は例年とほぼ変わらないが、就職内定者が4年ぶりに減少した。これは、就職希望者が減少していることを意味しているのではないかと判断する。
- ・経済的な理由で進学希望から就職へ変更せざるを得ない生徒有り。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・特になし。

(8) 上級学校（四大・短大・専門学校等）との競合状況

- ・就職試験（公務員試験）で不合格であったので、進学に切り替えた生徒がいる。
- ・資格が必要な職業に就くため、進学が必要な生徒が増加している。

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・二次募集の求人も多い。(同じ会社から何度も求人がある)ただし、大手企業からは少なく、中小企業がほとんどである。

(10) その他

- ・高校訪問等で、高卒採用から研修や現場での経験を通して、熟年層の技術を引き継がせたいと感じるケースが多かった。
- ・県外の求人について、その地元の評判や信用等を得る手段があればよい。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)

- ・応募前職場見学は就職希望者の全員が行ったが、早期選考の事例はなかった。
- ・説明会に参加しないと就職試験も受けられない企業があった。
- ・実施日が8月下旬になるなど遅い企業があったため、校内の選考会議に間に合わなかった。

(2) 応募書類

- ・特になし。

(3) その他

- ・内定式を平日に行う企業あり。
- ・課業日に研修を実施したいという企業有り。

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1) 就職面接会

- ・活用し、参考にしている。
- ・障害者対象就職面接会参加企業の職種が広がってほしい。

(2) ジョブ・フェア(合同職場説明会)(実施している地域のみ回答)

- ・開催時期を早くしてほしい。可能であれば低学年も参加できるとよい。

(3) 就職準備講習

- ・県教委より案内のあった講習会に参加した。
- ・継続を望む。
- ・ハローワーク、就職支援相談員、外部支援機構による進路講演を実施した。

(4) 未就職卒業生就職支援事業等

- ・継続を望む。

4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ジョブサポーター)等の就職支援

- ・個別支援など大変お世話になっている。特に面接練習や高度の支援が必要な生徒の対応をお願いしている。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施するガイダンス事業)

- ・就職ガイダンスは企業希望生徒にとって、就職について学ぶよい機会になっている。
- ・保護者対象の説明会は実施していない。

(3) その他・要望・意見

- ・企業説明会にも保護者が参加できるように、土日開催はできないだろうか。
- ・定時制は、授業前や放課後での就職ガイダンスなどは開催できない。また、正規の授業時間を活用して就職活動を行うこともたくさんはできない。

5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・長期的な展望に立った雇用の促進制度により、生徒が景気等に左右されず採用されるような取組と企業に対する積極的な働きかけをしてもらいたい。
- ・車いすの生徒が企業就労できるように環境や仕事内容の整備をお願いしたい。
- ・3月末誕生日の生徒が入社後働きながら自動車学校に通えるよう、企業指導をお願いしたい。

6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について

- ・変更について、あまり周知されていない。知らなかったので、きちんと周知してほしいという意見が多数あり。
- ・生徒が就職先の選択を誤らないように、賃金、労働時間等の労働条件に関する記載の正確さを望む。求人数の欄も必要である。
- ・現行のものでよいのではないかという意見もある。
- ・電子化による情報入力の手軽さを考えてほしい。

7 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点

(サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて)

- ・ハローワーク、学校の連携や高卒求人でも保障されている中身を堅持しつつ、WEBサービスが一般化されることを通して、より情報収集しやすくなっていくことを期待する。
- ・全国展開の企業を検索する時に、関西圏のものは出てくるが、関東圏のものは表示されなかった。

(2) 新たに希望する追加機能など

- ・検索機能が容易にできるようなシステムにしてもらいたい。

- ・Excel書式でダウンロードできるようにしてほしい。(データ分析が可能になる)
 - ・求人が充足した企業がすぐに分かるシステムを構築してほしい。
 - ・企業のホームページとリンクできるようにしてほしい。
- 8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点**
- ・趣旨はわかるが、各学校で異なる様式や実態の応じた内容になることで就職進学が不利になる学校が出てしまうことはないのか。
 - ・検討していない学校がほとんどである。
 - ・小中高での具体的な連携の方向性が不透明である。
- 9 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望)**
- ・就労促進セミナー、進路相談会等において、協力していただき、生徒について知っていただくよい機会になっている。
 - ・応募用紙への記入についてのアドバイスしていただいた。また、面接練習をしていただき、具体的なアドバイスを多数いただいた。就職試験を受ける生徒、就職担当教員にとって有益であった。
 - ・企業への指導を要望したい。
 - ① 試験日程の早期連絡と試験の早期実施
 - ② 可否連絡の求人票記載事項(日時)の遵守
- 10 関係機関(①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等)に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載**
- ・一人一社制を堅守してほしい。複数応募は、大手企業や人気の高い企業はメリットがあるかもしれないが、中小企業や地域企業にとっては不利になることが多いため、反対である。(①)
 - ・一人が複数の就職試験を受けると、学校現場の混乱を招く。(指導、把握が困難になる)(①)
 - ・大都市圏と地方との賃金格差の是正(地方だからといっても生活費が安く済むわけではない)で、人口流出の要因となっている)と安定した職場の確保。(③)
 - ・企業情報など高校とのより一層の情報共有、離職者調査等での連携強化。(④)
 - ・高校生就職の受け皿企業として県内企業への働きかけ、啓発活動の強化。(⑥)

(四国ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・九州地方など今まで求人が来ていなかった地域から求人が増加した。また、関東地方からの求人も大幅に増加した。
- ・全業種にわたって求人が増加した。(特に製造業・サービス業・建設業・福祉・空港サービス)
- ・土木系企業で、基本給を1万円前後上げてきたところが多く、勤務についてもかつてのブラックなイメージを払拭しようと努めていることをアピールするところが多い。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・ほとんどが正社員での採用である。若干有期雇用はあるが応募する生徒はなく、学校としても推奨していない。

(3) 採用試験の状況

- ・選考は厳正、難化の傾向がある。一次、二次試験を課す企業があり、最終決定までに時間がかかる。
- ・選考時に適性検査を実施する企業が増加した。また、複数実施する企業もある。
- ・募集人数以上に採用する企業がある。
- ・採用を前提とし、業務内容を説明して面接が終わるなど雑談的面接をする企業が増加した。
- ・求人票の内容と異なる試験を実施した企業があった。また、求人票に記載のない二次試験を行う企業があった。
- ・適性検査の一部を個人や学校のPCでするよう案内を受けたが、公平性を欠くことにもつながるので複数校で申し入れをし、改善してもらった。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・応募前職場見学の日程で変更があった程度で、特に大きな影響はなかった。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・県内や地元で就職を希望する生徒が多い。
- ・全日制には求人があるが、定時制は対象外とする企業があった。
- ・例年商業科は事務職を希望する生徒が多いが、今年度は製造業を希望する生徒も多かった。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・経済的に厳しい家庭は、就職希望になる場合が多い。
- ・当初進学を希望していた生徒でも、県内大手企業の求人票を見て、就職に転じた生徒がいる。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・民事再生法適用による求人取り消しがあった。
- ・8月に1社から事務職と製造職の2つとも求人取消の連絡があった。理由は専門学校生に内定

を出したとのこと、ただちにしごとプラザのジョブサポーターに報告した。

- ・2名の求人をいただけるとの話であったが、求人票を受け取ったら1名となっていた。理由は上級学校生内定者の定着がよく、高卒生の採用を昨年度より絞ったということだった。

(8) 上級学校（四大・短大・専門学校等）との競合状況

- ・上級学校の内定状況により、高卒求人の採用枠を決定する企業が複数ある。
- ・上級学校の採用がうまく進まず、高卒求人を増やす学校がある。

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・二次試験以降の求人数も多い。（郵便、電話での勧誘を含む）採用状況も良好である。

(10) その他

- ・アウトソーシングによって一括郵送されてくる求人については、採用数の2倍までという慣行がどの程度守られているのか、疑問に思っている。

2 就職慣行（一人一社制）の遵守について

(1) 応募前職場見学（早期選考がないかなど）

- ・早期選考はない。学校として、夏季休業中の応募前職場見学を強く勧めている。
- ・「見学＝応募」ととらえている企業や小規模企業ではあるが、早期選考の事例があった。

(2) 応募書類

- ・不採用の場合、書類を学校へ送り返してこないケースが依然としてある。
- ・内定後の提出書類に身元保証人を求める企業がまだある。
- ・履歴書、調査書、推薦者名簿、推薦生徒の受験結果についての用紙を送付している。
- ・結果通知について、統一書式（推薦生徒の受験結果について）ではなく、企業独自の様式が多い。また、採否の理由を記載しない企業も多い。

(3) その他

- ・一人一社制の遵守は重要だと考える。
- ・高卒求人を初めて出す企業のなかには、内定までの流れを十分理解していない場合がある。
- ・二次募集の案内時に、「受験してくれたら合格は保証する」と合格に言及する企業があった。
- ・県外企業で、入社後でもよい書類の提出を求められた。
- ・相変わらず、内定式が早い企業がある。（10～11月）

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1) 就職面接会

- ・企業と係教員との会議が3回開催され、企業の本音を聞くことができ、有意義だった。
- ・毎年同じ業種なので、業種のバリエーションを増やしてほしい。
- ・企業の再理解や内定につながるケースも多い。

(2) ジョブ・フェア（合同職場説明会）（実施している地域のみ回答）

- ・生徒向けの地元企業説明会を開催した。生徒の意識を向上させる意味では効果があった。
- ・7月に就職希望者を全員参加させた。
- ・5月の就職問題懇談会では、多くの企業と意見交換することができ非常に有意義であった。

(3) 就職準備講習

- ・2年生の2月に労働局を通じて講習を実施し、効果が認められた。
- ・3年生全員に就職に関する講演会を実施した。（6月、7月、8月）

(3) 就職準備講習

- ・特になし

(4) 未就職卒業生就職支援事業等

- ・特になし

4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員（ジョブサポーター）等の就職支援

- ・ジョブサポーターとの連携により求人情報を確認している。職種によっては一般求人を高卒求人へ変更してもらえるケースもある。
- ・障害者職業センターのマンパワーは弱く、必要としている支援量が少ない。
- ・生徒に応じた細やかな支援をいただいている。学卒ジョブサポーターとは密接に連絡を取り合うとともに、学校行事にも積極的に参加していただいております。関係を大切にしたい。
- ・問題事案が発生した時などに相談にのっていただいている。的確なアドバイスや情報提供が大変ありがたい。欠かせない存在となっている。

(2) 生徒、保護者への講義・講話・企業説明等（ハローワークが実施するガイダンス事業）

- ・夏休みに就職希望者に対するハローワーク主催のガイダンスを実施した。面接対策や就職試験にむけた生徒の意識付けに効果があった。
- ・「すだちくんハローワーク」に依頼し、夜間部に訪問してもらい講演会や面談を実施した。
- ・就職希望者への面接指導、1年生対象に「働くことの重要性」について講演を実施した。
- ・企業説明会などに尽力していただいている。ただし学校側の要望とのすりあわせが必要である

(3) その他・要望・意見

- ・夜間部では、時間外となるため講師依頼が難しいという現状がある。

- ・ハローワークから高卒求人票が企業に配布されるのが7月1日となっており、せめて1週間で良いから早めてもらいたい。あちこちで要望しているが実現していない。
- 5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて（具体的に）**
- ・ハローワーク・厚生労働省それぞれが行っている具体的なサポート支援事業とその実施計画を企図、規模、目的別に時系列にまとめたサポートハンドブックがあれば、年度当初にほしい。
 - ・障がい者支援については、生活も含めた包括的な支援がほしい。
 - ・サポートステーションの取り組みの充実をお願いしたい。
 - ・新たな取り組みを実施するのであれば、それに見合った職場の増員が必要である。
 - ・建設業（特に建築部門）の働き方改革の推進については、抜本的に取り組んでほしい。休日の確保や就業時間の管理、効率的な業務運営等の改革と、技術者のカリキュラムに則った人材育成（研修）システムを構築していただきたい。
 - ・キャリア教育の実践講習、キャリア教育プログラムの高校版を提供していただきたい。
- 6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について**
- ・複数の学科が併設されている学校では、求人票を見ても、どの学科への求人なのかが判断できない場合が多い。希望する学科があるのか、不問なのかを明確に記載してもらいたい。
 - ・今回の見直しについて、学校現場からの要望の聞き取りは公平性を保って実施されたのか。このような大きな変革については、せめて公平にアンケート等を実施してほしい。
 - ・従来職種に相当する欄が削除されたがなぜか。職種と就業形態はイコールではないと考える。職種は、端的な言葉でいいので掲載してほしい。
 - ・採用応募者数が削除されている。「募集・採用に関する情報」の欄に加えてほしい。
 - ・手取り額や求人連絡・推薦数と採用・離職状況の欄を復活してもらいたい。
- 7 「高卒求人情報WEBサービス」について**
- (1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点（サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて）**
- ・人員が充足した企業は削除してもらいたい。
 - ・パスワードを生徒に公表することを認めてほしい。
 - ・パスワード・IDを入力せずとも検索できるようにしてほしい。
 - ・NOT検索できる状況にしてほしい。（ハローワークインターネットサービスの様に）
 - ・WEB公開の求人票も、せめて1週間でいいから公開日を前倒してほしい。
- (2) 新たに希望する追加機能など**
- ・企業名で検索できるようにしてほしい。
 - ・指定校検索ができるようにしてほしい。自校への求人が把握できるようにしてほしい。
 - ・求人票の各項目内容をCSV形式でダウンロードできる機能がほしい。
- 8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点**
- ・具体的な内容が不明である。例えばどのような時間（授業／放課後／長期休み／家庭）に、何を使って、どのように指導するのか。（小中学校との連携方法／デジタル化）
 - ・高校生の就職にどのくらい利用されるのかが不明であり、何をどこまでやらなければいけないのかが判然としない。企業側は興味なさそうであった。
 - ・ポートフォリオと「キャリアパスポート」は重なる部分が多いと思われるため、生徒の負担を考えると統一した記録用紙を作成する必要がある。
 - ・高大連携でのポートフォリオとどのように関連させるのかよく分からない。
 - ・紙ベースでの記録となれば、最終的に誰が保管するのか、紛失の場合はどうするのか、問題点は多々あるように思われる。活用のされ方もポートフォリオ同様に不明だ。
- 9 ハローワークとの連携について（好事例、期待、意見、要望）**
- ・求職登録の方法や就労継続支援A型事業所へ就職する場合に必要な書類について、また、採用までの流れについてなど、丁寧にわかりやすく教えていただいた。
 - ・是非ともジョブサポーターを復活させていただきたい。
 - ・定期的に就職担当者会を実施した。就職希望生徒や職種、地域等の動向把握及び活用実績が大きい。
 - ・企業側に問題があった場合、県、ハローワーク連携により企業に対して指導をしていただいている。
 - ・ハローワーク主催の教員向け企業見学会は大変ためになった。来年も開催を希望する。
 - ・配慮を要する生徒に対し学卒ジョブサポーターが真摯に対応してくれた。その結果、本人、保護者ともに満足のいく内定が得られた。不安を抱えていた担任教師とも面談してくれた。
- 10 関係機関（①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等）に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載**
- ・企業研究の時間をより確保するために、求人票の受付開始日を早くしてもらいたい。（①）
 - ・新しい求人票の体裁には問題があり、改善を求める。（①）
 - ・いろいろな省庁や市町村、もしくは担当部署から、アンケートや協力依頼があるが、窓口を教育委員会にさせていただき、調整をしていただけると現場の業務改善につながると思う。（①～⑥）

- ・各機関、個別でのキャリア教育ではなく、統一した具体的な提案をしていただきたい。(①～⑥)
- ・就職試験解禁日が早すぎる。試験日を10月にしてほしい。(①～⑥)
- ・県からの委託事業を請け負っている業者の対応に問題がある。(⑤)
- ・月毎の就職希望(決定)状況の報告を同一書式にできないか。できれば公務員を就職の外数で報告するハローワークの様式がわかりやすい。(⑤)
- ・採用企業はウェブサイトを通じて、直接内定生徒に情報を提供したり、様々な予備調査などを依頼したいと考えている。そして、伝達内容や情報量の多いもの、画像などが必要なものは、紙ベースでは膨大なものとなり、直接やりとりすることを可能にしている他県の生徒との間に情報格差が生じ、生徒本人の不利益につながりかねないため、これを解禁してほしいと考えているが、今年度は、生徒の個人情報保護や学業優先の観点から、学校を通すという体制を維持している。しかし、ペーパーレス化の世の中で、いつまでこれを維持すべきか悩んでいる。教育委員会の意見も聞いてみたい。(⑤)

(九州ブロック)

1 本年度の求人傾向と就職状況等について

(1) 求人の傾向(変化のあった業種、職種等について)

- ・求人数は相変わらず多く、概ね増加傾向。特に、建設・建築・製造・飲食・運輸・漁業・観光・保安関係は多いが、求職数との乖離が大きい。事務関係は、緩やかではあるが増加傾向にあった。
- ・例年大卒採用をしていた企業が初めて高卒求人を出したケースがあった。認識不足(例えば試験日が解禁日前だった等)といった状況もあった。また大卒と競合する不安もある。
- ・関東、関西地区も求人数と内定が増加した。同様に寮や住宅手当付きの求人が少し増加。離島を抱える県には朗報となった。
- ・企業側の性別による希望、こだわりが感じられる。

(2) 有期雇用・派遣求人

- ・正社員と契約社員の両方の求人を出す企業や社員として雇用した後事業所に派遣する形態もありこのことが不安で応募先を変えた事例があった。

(3) 採用試験の状況

- ・就職試験は9月に集中。1次募集不合格でも2次募集では合格していた。
- ・二次試験を実施する企業では不合格の場合二の矢が遅れることが懸念された。
- ・「面接重視」または受験項目が「面接のみ」の企業が多い。
- ・筆記はSPIをはじめとする適性検査が増加した。
- ・面接はグループワークやディスカッションの形式が増加した。
- ・売り手市場のため取り組みが甘い生徒もいた。
- ・県内企業の採用意欲と熱意が生徒たちに伝わり、いい結果に結びついたと考えられる。
- ・健康上不安なことはないか、と繰り返し聞く企業もあった。
- ・違反質問が増加している県もあった。(家族構成、既往症、思想・信条等)
- ・県外企業から「他の職種でなら採用」といった条件付きの結果通知があった。

(4) 災害(台風・地震・集中豪雨・噴火等)の影響

- ・水害や台風で試験日と職場見学の期日変更(又は中止)事例があった。
- ・泊を伴う受験は特にタイミング的に閉庁日の対応となり、苦慮した。
- ・台風の影響で会社のライフラインが止まり、選考会の通知が大幅に遅れた事例もあった。

(5) 学科・課程・地域での特徴

- ・製造業や土木建設業を中心に学科不問の求人が多く、人手不足の深刻さが伺えた。
- ・商業系以外の学科で事務職を希望するケースが増えてきた。
- ・新規に普通科への求人を出すという会社が増加した。
- ・スポーツ系の部活動に入部していれば誰でも良いという雰囲気のある事業所がある。
- ・福祉のように学科の特性を活かした就職傾向がある。ただし、船舶職員のように運輸局経由なので自己就職扱いの職種もある。

(6) 就職を希望する生徒について(進学希望から就職へ希望を変更する生徒の状況等も含めて)

- ・地元志向が強くなってきている一方で同一県内でも地域による求人の偏りがあった。
- ・離島を擁する県では県外企業を選ぶケースが多く、県外流出につながっている。
- ・公務員希望者や大企業への就職希望者が少しずつ増えている。
- ・進学申込直前(10月以降)になってから、経済的事情で取りやめるケースが多い。
- ・高卒求人では不合格になり、自己就職に変更する生徒がいる。
- ・応募前職場見学等に出掛けた生徒は、ほぼ内定を頂いたが、その逆も見られる。

(7) 内定取消・求人取消の状況

- ・応募書類を提出したが、その後、9月末に求人を取り消した企業があった。
- ・求人票の内容変更(退職金制度廃止、転勤の可能性)で、受験を辞退する者が出た。

(8) 上級学校(四大・短大・専門学校等)との競合状況

- ・将来的に必ず資格が必要になる職種を希望する者や公務員希望者は進学する傾向にある。

- ・進学・就職双方から就ける分野（介護、美容、調理等）ではどちらにするか悩む生徒もいた。

(9) 二次以降の求人状況・採用状況

- ・二次募集の求人数は増加傾向にある。企業からも積極的アプローチが増え三次募集もあった。
- ・中には一次募集より二次募集で希望に沿った求人もあった。
- ・二次募集で集めると「離職率が高い」「レベルが下がる。」などの声もあった。
- ・県が各企業の充足情報を速報で各校に流してくれており、早期に対応できた地域もあった。

(10) その他

- ・委託業者による営利目的の求人票の大量送付の取り扱いはどうすればよいのか。

2 就職慣行(一人一社制)の遵守について

(1) 応募前職場見学(早期選考がないかなど)

- ・応募前職場見学がようやく定着してきた感があり、進路決定にかなり有効であった。
- ・会社の認識不足がある。(例えば見学時に、選考、見学を受験や求人票の条件とした、見学をした生徒が必ず受験すると思っていた、「応募前職場見学」の位置づけを選考と勘違いしている、等)
- ・応募前職場見学到匿名で送り出すという指導は実施が難しい状況がある。

(2) 応募書類

- ・履歴書・調査書のみ等の筈なのに、一部企業では受験票など提出となっている。
- ・内定後に「九州地区高等学校進路指導研究協議会統一用紙」以外の様式や、身元保証書、誓約書、秘密保持誓約書、個人情報の取得・利用に関する同意書等の提出を求められた事例あり。
- ・複数応募は、ここ数年求人数が増えてきたために、利用する生徒はあまりいない。

(3) その他

- ・企業側が選考試験を前倒しして採用者を決定した為、就職試験を受けられない県があった。
- ・締切翌日が試験日になっていることが求人票に記載されておらず、取り下げを余儀なくされた。
- ・追加募集の日程がタイト過ぎる企業や試験日の連絡通知が前日届いた企業があった。
- ・すでに一人三社制をとっている県もあるが県内でも、賛否両論である。

3 職業安定機関が実施している高卒者就職支援事業の活用状況、効果、課題及び要望等について

(1) 就職面接会

- ・県によって温度差がある。例えば、従来の時期では終結している学校が多く、実施に至らなかった場合もある一方で、期待している学校もあった。

(2) ジョブ・フェア(合同職場説明会)(実施している地域のみ回答)

- ・県によって温度差はあるが、概ね参加率も評価も高い。ただし実施時期の早期化を望む声が多い。

(3) 就職準備講習

- ・概ね参加率も評価も高い。

(4) 未就職卒業生就職支援事業等

- ・ここ数年就職率100%なので、利用頻度は低い卒業後の離職者支援としても継続を望む。

4 職業安定機関が実施しているガイダンス事業の活用状況、効果及び要望について

(1) 就職支援相談員(ジョブサポーター)等の就職支援

- ・配置や活用に関して学校間や全日制と定時制の格差や任期が短いという問題もある。
- ・求人情報の相談や問題事案の相談、求人情報提供、職場開拓、定着指導、インターシップ先の開拓など活動多岐だった。ただし活用頻度の少ない学校もある。

(2) 生徒、保護者への講義・講話、企業説明等(ハローワークが実施するガイダンス事業)

- ・各県とも概ね高評価を得ている。意識づけや雰囲気づくりにも有効であった。
- ・3年の3学期に就職者に対して実施した。
- ・1、2年次に「就活列車」という事業、専門学校協力の面接会・情報交換会や保護者も交えた1年生、2年生対象の企業説明会等ができた。
- ・参加者が他の生徒たちへ還元し、雰囲気づくりに向けた取り組みをする学校もある。

(3) その他・要望・意見

- ・離島を擁する県ではガイダンスの講師人数の較差が無いようにお願いしたい。
- ・就職支援員も面接会や見学会に生徒引率ができるようお願いしたい。
- ・IT関係の企業の説明会を望む。省力化を背景に盛況が見込まれるので。

5 厚生労働省に期待する新たな取り組みについて(具体的に)

- ・ユースエール認定制度は一つの目安となるので、運用の継続と周知への取組を望む。
- ・今後も有期雇用・派遣社員の割合を減少させ正規雇用の促進を望む。
- ・大都市圏と地方の人口アンバランスの解消や企業の地方誘致促進を望む。
- ・特別支援学校等に在籍する生徒の就業と福祉施設の充実を図ってほしい。
- ・ジョブサポートティーチャーの配置校の増加を望む。
- ・地元に残って就職したいという生徒(特に製造業)が就職出来るような環境づくりを望む。
- ・就職氷河期に正規雇用が叶わなかった世代や3年以内の離職者への支援や救済措置を望む。

6 2020年より改定される新求人票についての意見・要望について

- ・情報が整理され、2枚にまとまったことで生徒は理解しやすいと思われる。
- ・整理・保管はしやすくなると思うが記載内容については就職希望者本位の内容にしてほしい。
- ・旧求人票から抜け落ちた部分（手取額、賞与、宿舍、補助、学校別推薦数、有給、離職率、電話・FAXなど）も明記してほしい。
- ・新旧の変更点、新求人票の見方などに関する説明の場を望む。
- ・「応募前職場見学が採用条件ではない」ことを明記できる形式への配慮を望む。
- ・分かりやすい標記を望む。（職種・業種・仕事・適性検査・一般教養・応募先等）
- ・混乱と負担をなくすためにも、1月では無く、次年度（令和2年4月）からの導入を望む。

7 「高卒求人情報WEBサービス」について

(1) その活用例と意見・要望・改善してほしい点

（サーバーへのアクセス不通の影響、パスワードの生徒へ伝えることの対応などを含めて）

- ・パスワード等をオープンにして生徒が自宅やスマートフォンで見られるような仕組みを望む。
- ・充足企業の削除をお願いしたい。
- ・オートログアウトの時間をもっと長くしてほしい。
- ・高校受付の求人票と同じ書式にしてほしい。
- ・非公開ならば、その旨明記してほしい。
- ・応募前職場見学で旅費の有無を明記する欄がほしい。
- ・希望する求人がどの業種・職種分類にあるのかがわかりやすくしてほしい。

(2) 新たに希望する追加機能など

- ・検索機能の向上、会社名や職種や地域のキーワードでも検索や並べ替えを可能にしてほしい。
- ・ExcelやCSVファイル出力を望む。
- ・当該企業のHPへのリンクを張り付けてほしい。
- ・求人票に事業所ごとや公開順に連番を付けてほしい。
- ・契約社員のチェック項目を付けてほしい。

8 2020年4月実施の「キャリアパスポート」について、現在、お困りの点、不明点

- ・負担に見合った成果が得られたか、クラス間での温度差がないのだろうかという疑問がある。
- ・不安な点（書式、時間、実用性、校種間の引継ぎ等）への説明会や先進県の紹介を望む。
- ・特別な資格やスキル以外に何が可否の判定につながるのか心配もある。
- ・すでに学校独自で個人ファイル等を活用している学校も改めて必要なのか。

9 ハローワークとの連携について(好事例、期待、意見、要望)

- ・いつも親切丁寧に支援して頂いている。障害や病気を抱えている生徒へのケアも手厚い。
- ・年2回の地区就職対策協議会で連携をとって個別な相談（違反事例等）についても、迅速にアドバイスを頂いているので、非常に助かっている。
- ・様々な取り組み（「はじめの一步講座」「旅立ち講座」）は3年生の不安軽減等で非常に役立った。
- ・定時制の17時以降の「進路講話」の講師を望む。
- ・障害者手帳を持っている就職希望の生徒への十分な企業情報の提供をしてほしい。
- ・今のうちから景気が悪くなる時代を見越して、事業所への何らかの働きかけを望む。
- ・平日の内定式は実施しないよう企業への指導をお願いしたい。

10 関係機関（①厚生労働省、②文部科学省、③経済産業省、④職業安定機関、⑤教育委員会、⑥経済団体等）に対する意見・要望について ※関係する機関の番号を各回答の文末に記載

- ・就業者（特に介護職希望者）が働きやすいような待遇改善を望む。（①②）
- ・一人一社制を当面は堅持してほしい。（①）
- ・就職支援員配置の継続と配置格差解消への取り組みをしてほしい。（⑤）
- ・日程の早期化（学校受付や応募書類受付）を検討してほしい。（④）
- ・ハローワーク求人のメリットが生徒にしっかり伝わるような資料がほしい。（④）
- ・求人票と就職後の内容が異なることなく作成するよう指導してほしい。（④）
- ・内定状況、卒業生進路、在校生進路希望などの報告窓口・書式の一本化を望む。（①②⑤）
- ・分類（番号）は厚生労働省と文部科学省で統一してほしい。（①②）
- ・未来に向けての日本経済の再生を学校側も共に考え、対話をする機会がほしい。（③⑤）
- ・定時制・通信制課程の生徒が相談できる機会の創出を希望する。（①④）
- ・人権同和教育の観点からも生徒に有利な全国規模での就労支援構築を願う。（①②③④⑤⑥）